B6FJ-8941-01

CELSIUS

CELSIUS J520

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 セキュリティ
5 ソフトウェア
6 BIOS
7 お手入れ
8 トラブルシューティング
9 仕様

目次

本書をお読みになる前に 7

安全にお使いいただくために 7
本書の表記 7
Windowsの操作 9
商標および著作権について 10

第1章　各部名称

1.1 ワークステーション本体前面 12
1.2 ワークステーション本体背面 14
1.3 ワークステーション本体内部 16
1.4 メインボード 17
1.5 キーボード 18

第2章　取り扱い

2.1 マウス 21
2.1.1 注意事項 21
2.1.2 マウスの基本設定を変更する 21
2.2 ディスプレイ 22
2.2.1 注意事項 22
2.2.2 解像度を変更する 22
2.2.3 拡大表示設定を変更する 23
2.3 マルチディスプレイ機能 25
2.3.1 マルチディスプレイ機能とは 25
2.3.2 注意事項 25
2.3.3 マルチディスプレイ機能を設定する 26
2.4 サウンド 28
2.4.1 全体の再生音量を調節する 28
2.4.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する 28
2.4.3 機器や項目ごとの音量を調節する 29
2.4.4 既定のオーディオ機器を選択する 30
2.5 省電力 31
2.5.1 省電力状態 31
2.5.2 電源を切る 33
2.5.3 省電力設定 34
2.5.4 「ディスプレイの電源を切る」 35

2.6 光学ドライブ 36
2.6.1 注意事項 36
2.6.2 使用できるディスク 37
2.6.3 ディスクをセットする 39
2.6.4 ディスクを取り出す 40
2.6.5 ディスクに書き込む 41
2.6.6 DVD-Videoを再生する 42
2.7 通信 44
2.7.1 有線LAN 44

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 47
3.1.1 注意事項 47
3.2 本体カバー 48
3.2.1 注意事項 48
3.2.2 本体カバーを取り外す 48
3.2.3 本体カバーを取り付ける 49
3.3 メモリ 50
3.3.1 注意事項 50
3.3.2 取り付けられるメモリ 50
3.3.3 メモリを取り付ける 51
3.3.4 メモリを取り外す 52
3.4 拡張カード 53
3.4.1 注意事項 53
3.4.2 拡張カードを取り付ける 54
3.4.3 拡張カードを取り外す 55
3.5 コネクタの接続／取り外し 56
3.5.1 注意事項 56
3.5.2 ディスプレイコネクタ 57
3.5.3 USBコネクタ 59
3.5.4 オーディオ端子 59
3.5.5 LANコネクタ 60
3.5.6 シリアルコネクタ 61

第4章　セキュリティ

4.1 コンピューターウイルス 63
4.1.1 コンピューターウイルス対策 63
4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする 64
4.2.1 Windows Update 64
4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）. 64
4.3 不正使用からのセキュリティ 65
4.3.1 BIOSのパスワード 65
4.3.2 セキュリティチップ 65
4.3.3 Portshutter 65
4.3.4 エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能 66
4.4 ワークステーションの盗難防止 67
4.4.1 ワークステーション本体の施錠方法 67
4.4.2 セキュリティ施錠金具の使用方法 67
4.4.3 本体カバーキーの施錠方法 68
4.5 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意 69
4.5.1 ワークステーションの廃棄・譲渡時の
ハードディスク上のデータ消去に関する注意 69
4.5.2 ハードディスクデータ消去 70
4.6 データのバックアップ 72

第5章　ソフトウェア

5.1 ソフトウェアの紹介 74
5.1.1 一覧表の見かた 74
5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア 75
5.1.3 サポート関連のソフトウェア 76
5.1.4 ユーティリティ 77
5.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア 78
5.1.6 メールソフト 78
5.1.7 Office製品 79
5.2 インストール 80
5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール 80
5.2.2 「ノートン アンチウイルス」のインストール 82
5.2.3 「i-フィルター」のインストール 82
5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール 82
5.2.5 Office製品のインストール 82
5.3 アンインストール 83
5.3.1 注意事項 83
5.3.2 アンインストール方法 83

第6章　BIOS

6.1 BIOSセットアップ 85
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 86
6.2.1 BIOSセットアップを起動する 86
6.2.2 BIOSセットアップ画面 86
6.2.3 各キーの役割 87
6.2.4 BIOSセットアップを終了する 88
6.2.5 起動メニューを使用する 89
6.3 メニュー詳細 90
6.3.1 情報メニュー 91
6.3.2 システムメニュー 92
6.3.3 詳細メニュー 93
6.3.4 電源管理メニュー 96
6.3.5 セキュリティメニュー 97
6.3.6 終了メニュー 98
6.4 設定事例集 99
6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う 99
6.4.2 起動デバイスを変更する 102
6.4.3 セキュリティチップの設定を変更する 103
6.4.4 Wakeup on LANを有効にする 104
6.4.5 イベントログを確認する 104
6.4.6 ご購入時の設定に戻す 105
6.5 ME BIOS Extension 106
6.5.1 初期パスワードを変更する 107
6.5.2 MEセットアップを起動する 109
6.5.3 MEセットアップを終了する 110
6.5.4 メニュー詳細 111

第7章　お手入れ

7.1 日常のお手入れ 114
7.1.1 ワークステーション本体、キーボード、マウスの表面の汚れ 114
7.1.2 マウス（ボール式） 115
7.2 定期的なお手入れ 116
7.2.1 注意事項 116
7.2.2 ワークステーション本体外部のほこりを取る 116
7.2.3 ワークステーション本体内部のほこりを取る 117

第8章　トラブルシューティング

8.1 トラブル発生時の基本操作 121
8.1.1 状況を確認する 121
8.1.2 以前の状態に戻す 121
8.1.3 セーフモードで起動する 122
8.1.4 トラブルシューティングで調べる 122
8.1.5 Windowsのヘルプで調べる 122
8.1.6 インターネットで調べる 123
8.1.7 診断プログラムを使用する 123
8.1.8 サポートの窓口に相談する 124
8.2 よくあるトラブルと解決方法 125
8.2.1 トラブル一覧 125
8.2.2 起動・終了時のトラブル 127
8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル 131
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル 133
8.2.5 エラーメッセージ一覧 141
8.3 それでも解決できないときは 144
8.3.1 お問い合わせ先 144

第9章　仕様

9.1 本体仕様 147
9.1.1 J520 147
9.1.2 グラフィックスカードを選択した場合 150
9.2 CPU 151
9.3 ディスプレイ 153
9.3.1 解像度 153
9.4 光学ドライブ 154

廃棄・リサイクル 155

付録 156

索引 157

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2012年5月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をクリックし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

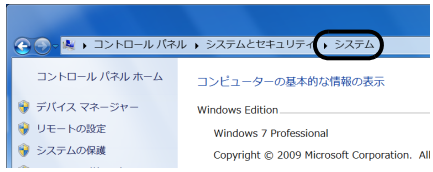
■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：

↓

「コンピューター」ウィンドウ



↓

「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ご購入時の構成によっては、次のディスクは添付されていません。

ディスク名称
リカバリデータディスク
トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク［リカバリ起動ディスク］
Corel® WinDVD®

添付されていない場合は、本ワークステーションに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。
なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Windows® 7 Professional 64 ビット版</td><td>Windows 7（64 ビット版）</td><td rowspan="2">Windows 7</td><td rowspan="2">Windows</td></tr>
<tr><td>Windows® 7 Professional 32 ビット版</td><td>Windows 7（32 ビット版）</td></tr>
<tr><td>Windows® Internet Explorer® 9</td><td colspan="3">Internet Explorer</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Home and Business 2010</td><td colspan="2">Office Home and Business 2010</td><td rowspan="2">Office</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Personal 2010</td><td colspan="2">Office Personal 2010</td></tr>
<tr><td>Windows Media® Player 12</td><td colspan="3">Windows Media Player</td></tr>
<tr><td>Windows Live® メール Version 2011</td><td colspan="3">Windows Live メール</td></tr>
<tr><td>Windows Live® Messenger 2011</td><td colspan="3">Windows Live Messenger</td></tr>
<tr><td>Adobe® Reader®</td><td colspan="3">Adobe Reader</td></tr>
<tr><td>Corel® WinDVD®</td><td colspan="3">WinDVD</td></tr>
<tr><td>i-フィルター® 6.0</td><td colspan="3">i-フィルター</td></tr>
<tr><td>Roxio Creator LJ</td><td colspan="3">Roxio Creator</td></tr>
<tr><td>ノートン™ アンチウイルス 2012</td><td colspan="3">ノートン アンチウイルス</td></tr>
<tr><td>NVIDIA® Quadro® 2000</td><td colspan="2">Quadro 2000</td><td rowspan="2">Quadro シリーズ</td></tr>
<tr><td>NVIDIA® Quadro® 600</td><td colspan="2">Quadro 600</td></tr>
</table>

Windowsの操作

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をクリックして表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。
また、多くのソフトウェアでは「ヘルプ」をクリックしたり【F1】キーを押したりすることでヘルプが表示されます。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の をクリックします。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Live、Internet Explorer、Windows Media、Access、Excel、OneNote、Outlook、PowerPoint、Silverlight、DirectXは、米国Microsoft Corporationおよび/またはその関連会社の商標です。

インテル、Intel、インテル Core、インテル vPro、XeonおよびIntel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

NVIDIA、NVIDIA Quadro、Quadroは、NVIDIA Corporationの登録商標です。

Adobe、Readerは、合衆国および／またはその他の国におけるアドビシステムズ社の登録商標または商標です。

Corel、WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。
Roxio、Roxioのロゴ、Roxio CreatorはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2012

1

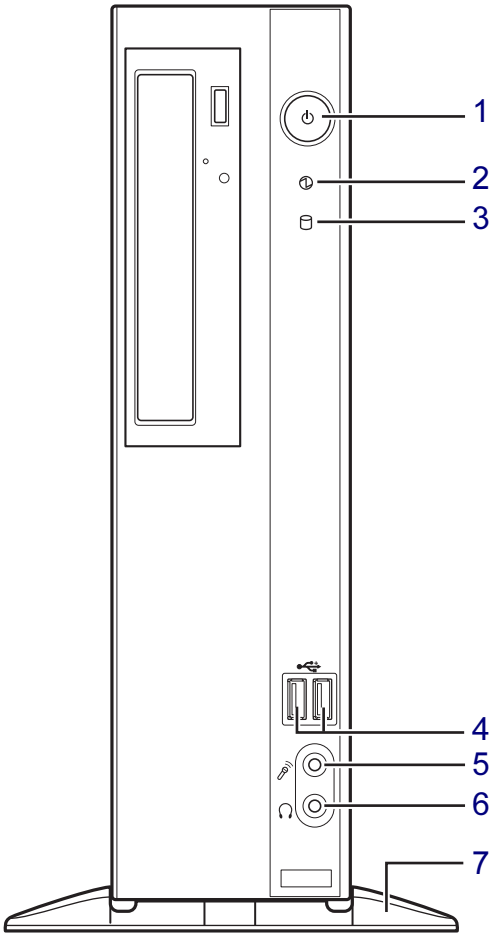
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1　ワークステーション本体前面 12
1.2　ワークステーション本体背面 14
1.3　ワークステーション本体内部 16
1.4　メインボード 17
1.5　キーボード 18

1.1　ワークステーション本体前面



1　⏻電源ボタン
ワークステーション本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.31）にしたりします。

2　電源ランプ
本ワークステーションの電源が入っているときに緑色に点灯します。スリープ状態のときはオレンジ色に点灯します。

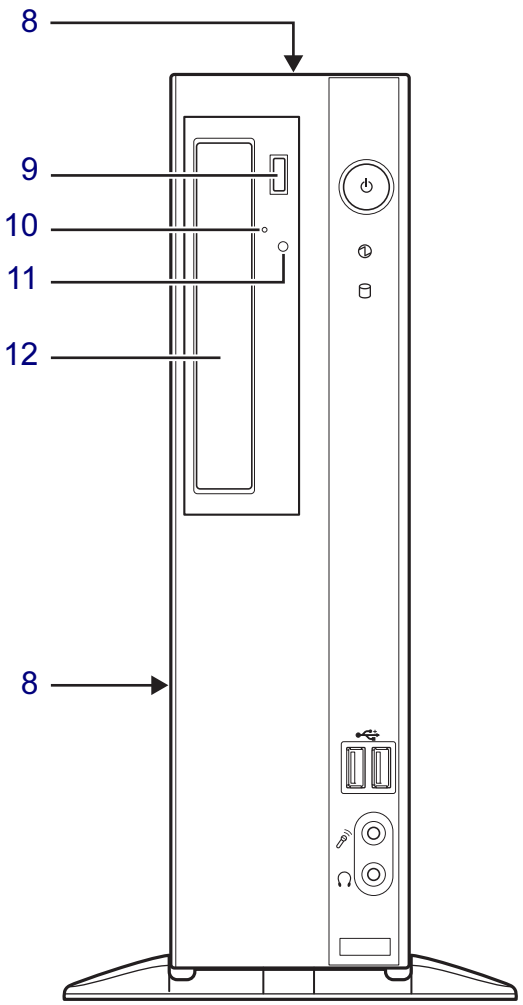
3　ディスクアクセスランプ
内蔵ハードディスクやCD、DVDなどにアクセスしているときに点灯します。

4　USBコネクタ
USB2.0に準拠しています。
（→P.59）

5　マイク端子
（→P.59）

6　ヘッドホン端子
（→P.59）

7　フット
本ワークステーションをお使いになるときに取り付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。



8　吸気孔
冷却用の空気を取り込むための穴です。

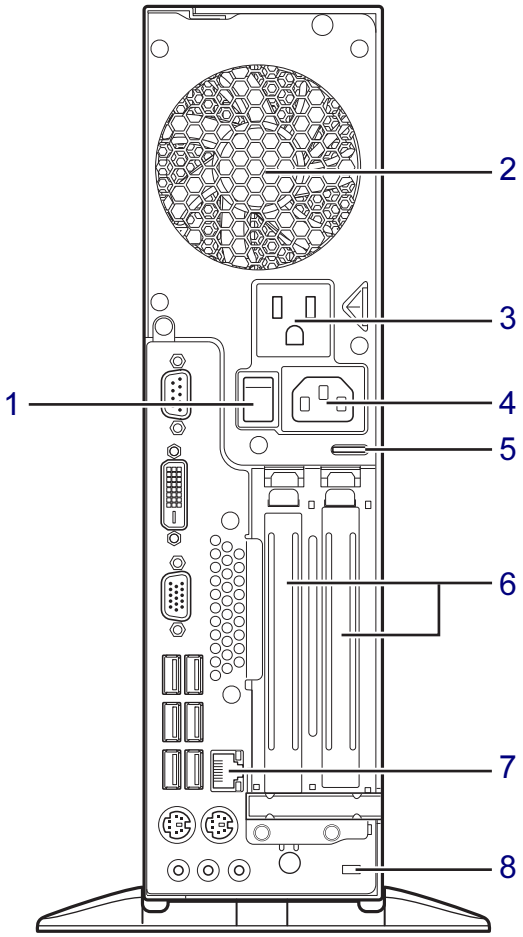
9　ディスク取り出しボタン
（光学ドライブ搭載機種）

10　強制取り出し穴
（光学ドライブ搭載機種）
光学ドライブのトレーが開かなくなったときに使用する穴です。（→P.40）

11　光ディスクアクセスランプ
（光学ドライブ搭載機種）
CDやDVDにアクセスしているとき、または光学ドライブのトレー開閉時に点灯します。

12　光学ドライブ
（光学ドライブ搭載機種）（→P.36）
次のいずれかが搭載されています。
・スーパーマルチドライブ
・DVD-ROM ドライブ

1.2 ワークステーション本体背面



1 メインスイッチ
ワークステーション本体の電源を切り替えます。

スイッチの状態	
オン 「｜」側に切り替え	ワークステーションを使用する場合（通常）
オフ 「○」に切り替え	・電源を完全に切る場合 ・長時間使用しない場合

2 排気孔
ワークステーション本体内部の熱を外部に逃がします。

3 アウトレット
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

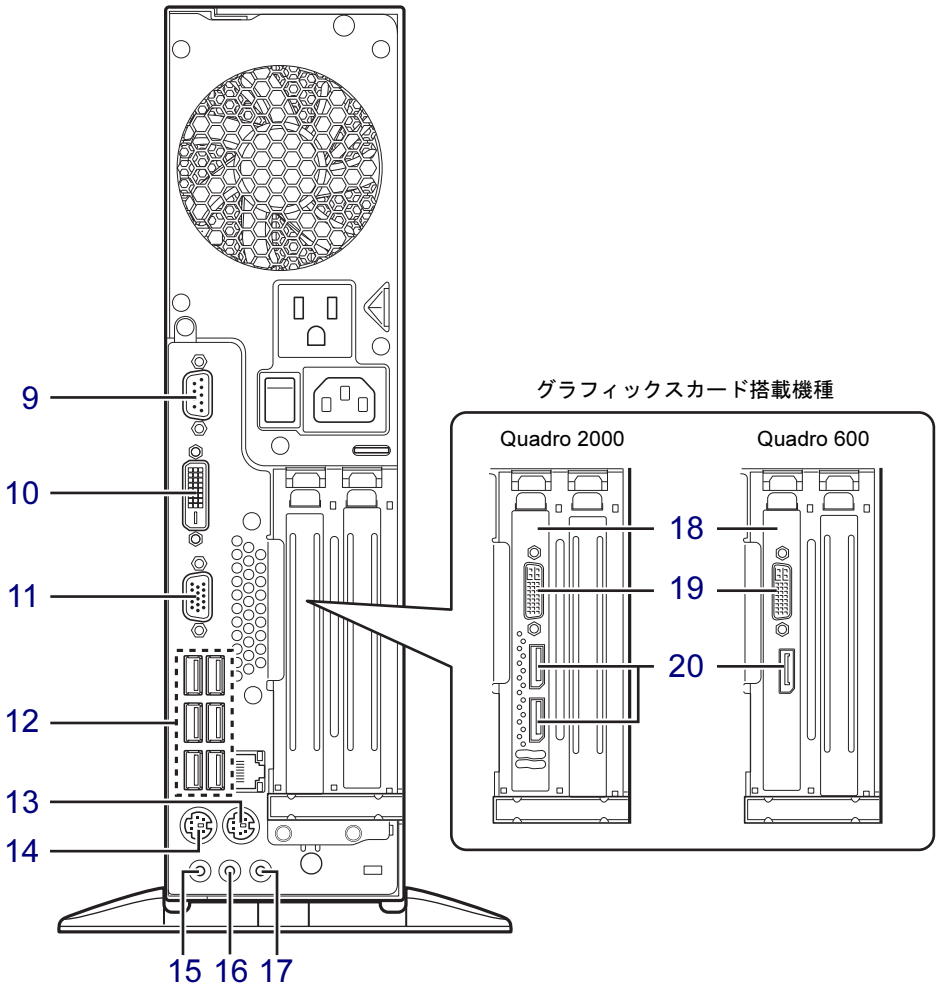
4 インレット
本ワークステーションに添付の電源ケーブルを接続します。

5 セキュリティ施錠金具
（→P.67）

6 拡張カードスロット
（→P.53）

7 LANコネクタ
（→P.60）

8 盗難防止用ロック取り付け穴
（→P.67）



9 シリアルコネクタ
（→P.61）

10 デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）
（→P.57）

11 アナログディスプレイコネクタ
（→P.57）

12 USBコネクタ
上の4つがUSB3.0に、下の2つがUSB2.0に準拠しています。
（→P.59）

13 マウスコネクタ

14 キーボードコネクタ

15 マイク端子
（→P.59）

16 ラインアウト端子
（→P.59）

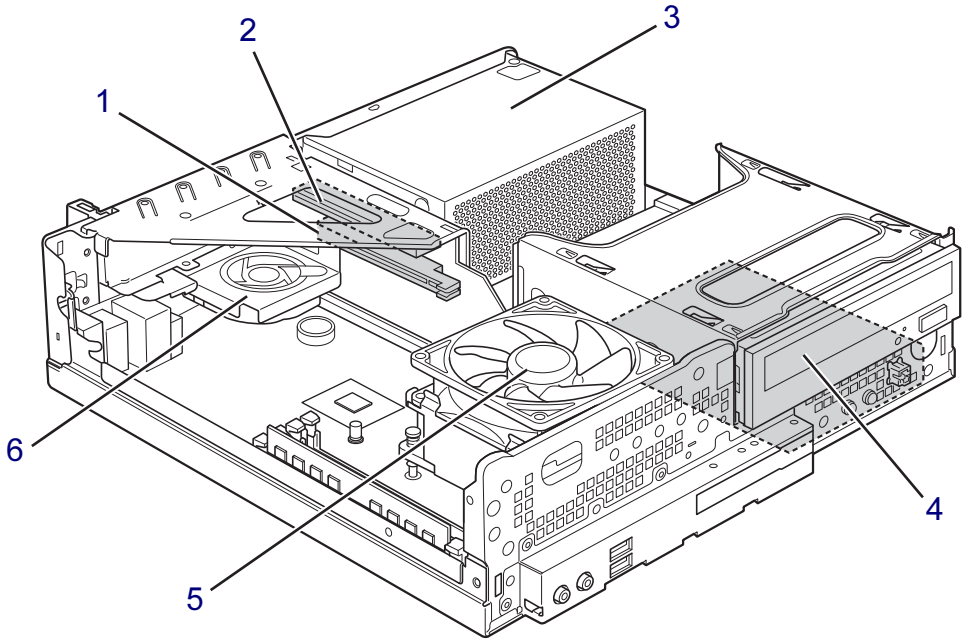
17 ラインイン端子
（→P.59）

18 グラフィックスカード
（グラフィックスカード搭載機種）
アナログディスプレイおよびデジタルディスプレイを接続します。2台のディスプレイを同時に接続することもできます。
（→P.25）

19 デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）
（→P.57）

20 DisplayPortコネクタ
Quadro 2000の場合、上のコネクタがDisplayPort1、下のコネクタがDisplayPort2です。（→P.57）

1.3 ワークステーション本体内部



1 PCI-Express x16カードスロット
グラフィックスカードを選択した場合、グラフィックスカードが取り付けられています。

2 PCIカードスロット
本ワークステーションの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。PCI規格に対応した拡張カードが使えます。（→P.53）

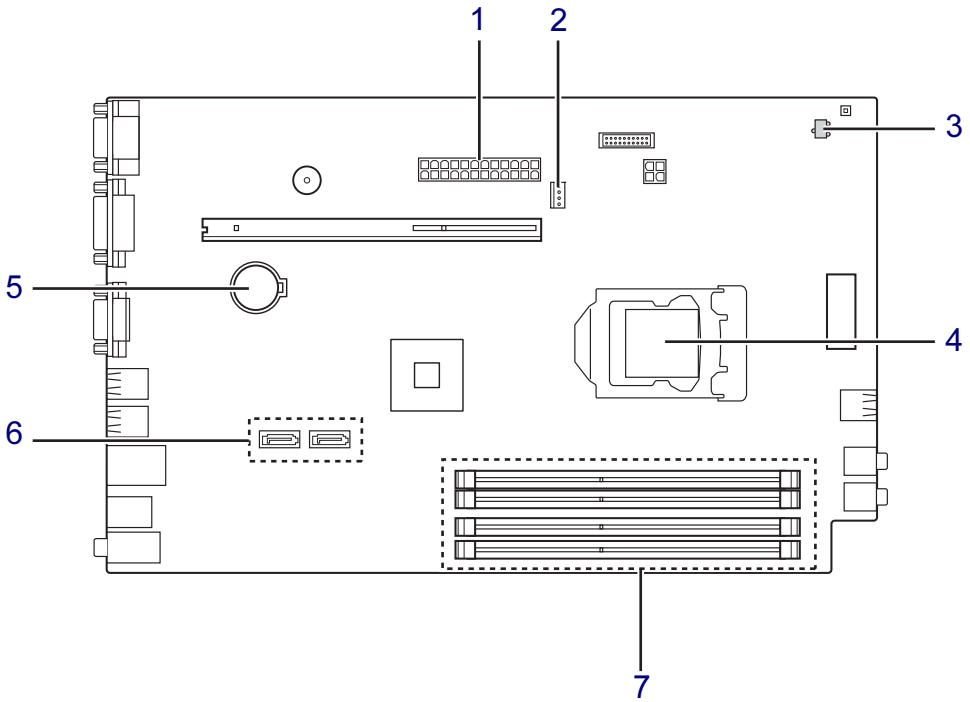
3 電源ユニット

4 内蔵ハードディスク
Serial ATA規格のハードディスクが取り付けられています。

5 CPUファン

6 拡張カードスロット用ファン
グラフィックスカードを選択した場合のみ取り付けられています。

1.4 メインボード



1 電源コネクタ

2 CPUファンコネクタ

3 温度センサー（システム）

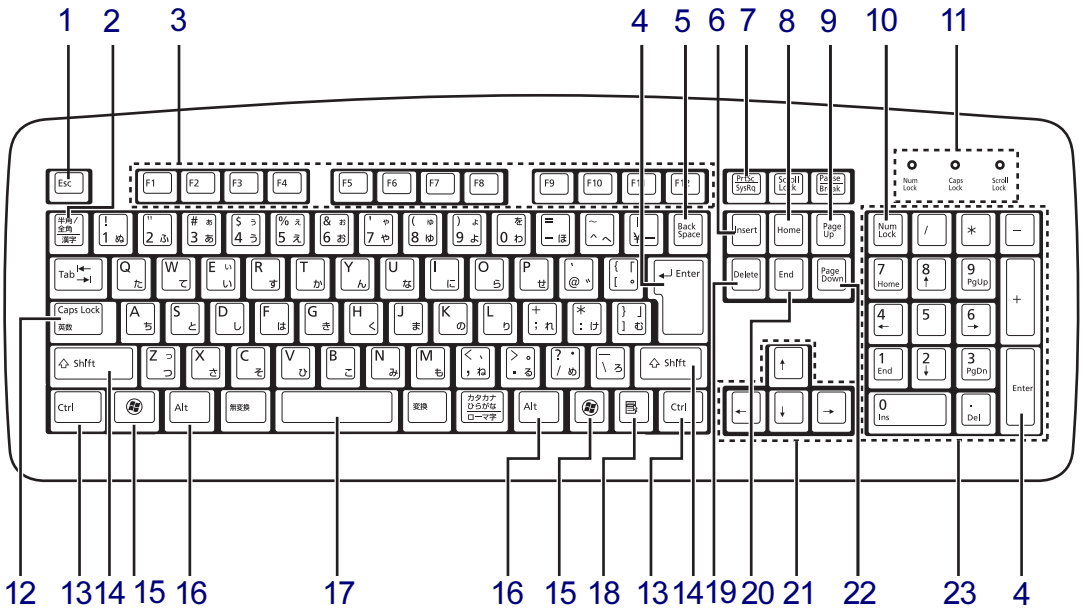
4 CPUソケット
本ワークステーションのCPUが搭載されています。

5 内蔵リチウム電池
本ワークステーションの時計機能の設定とBIOSで設定したセットアップ設定値を保存するためのバッテリです。標準の使用状態で約5年間お使いになれます。

6 シリアルATAコネクタ

7 メモリスロット
メモリを取り付けます。
（→P.50）

1.5 キーボード



1【Esc】キー

2【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

3【F1】～【F12】キー

4【Enter】キー

5【Back Space】キー

6【Insert】キー

7【Print Screen】キー

8【Home】キー

9【Page Up】キー

10【Num Lock】キー
テンキーのモードを切り替えます。

11 インジケーター
NumLock、Caps Lock、Scroll Lockの各機能のオン／オフを表示します。

12【Caps Lock英数】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字の入力を切り替えます。

13【Ctrl】キー

14【Shift】キー

15【⊞】（Windows）キー
「スタート」メニューを表示します。

16【Alt】キー

17【Space】キー

18【▤】（アプリケーション）キー
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスの右クリックと同じ役割をします。

19【Delete】キー

20【End】キー

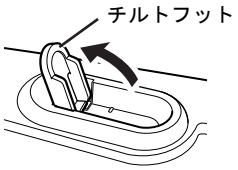
21 カーソルキー

22【Page Down】キー

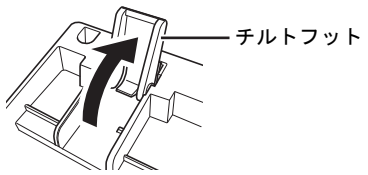
23 テンキー
「Num Lock」インジケーター点灯時に数字が入力できます。
「Num Lock」インジケーター消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

■ キーボードの角度調節

キーボードの底面には、チルトフットが2ヶ所付いています。
チルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



標準キーボードの場合

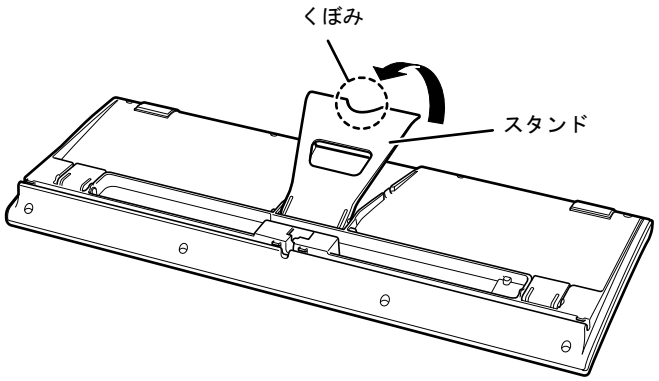


抗菌縦置キーボードの場合

■ キーボードの立て方

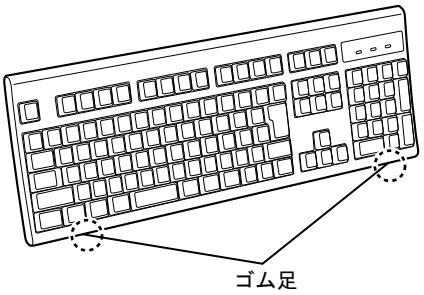
対 象　抗菌縦置キーボード搭載機種

キーボードを立てて、少ないスペースで収納することができます。
キーボードを立てる場合は、チルトフットを倒し、キーボード底面にあるスタンド中央のくぼみに手をかけて引き起こしてください。



□ 注意事項

- キーボードを立てた状態で、前後に押したり引いたりしないでください。キーボード下部に付いているゴム足がはがれる場合があります。



2

第2章

取り扱い

本ワークステーションを使用するうえでの基本操作や、本ワークステーションに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1　マウス 21
2.2　ディスプレイ 22
2.3　マルチディスプレイ機能 25
2.4　サウンド 28
2.5　省電力 31
2.6　光学ドライブ 36
2.7　通信 44

2.1 マウス

対 象　マウス搭載機種

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.1.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- 3ボタンマウスの中ボタンは、対応するソフトウェアでのみ使用できます。

2.1.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.2 ディスプレイ

ここでは、本ワークステーションに接続した1台のディスプレイを使う方法について説明しています。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→P.57）をご覧ください。
2つのディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.3 マルチディスプレイ機能」（→P.25）をご覧ください。

2.2.1 注意事項

- お使いのディスプレイと本ワークステーションの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.2.2 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

■ グラフィックスカードを選択しなかった場合

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。
「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。

3 「解像度」、「色深度」（発色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」（→P.153）をご覧ください。

4 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

■ グラフィックスカードを選択した場合

1 デスクトップで右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。
「NVIDIAコントロールパネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」→「解像度の変更」の順にクリックします。

3 「解像度」、「色の深度」（発色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」（→P.153）をご覧ください。

4 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.2.3　拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

■ グラフィックスカードを選択しなかった場合

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。
「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。

3 「スケーリング」を設定します。

- 画像を中央揃えにする
  画面は拡大されずに中央に表示されます。
- 全画面のスケールにする
  画面がディスプレイ全体に拡大されます。
- 縦横比を保持する
  画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
- ディスプレイスケーリングを保持する
  ディスプレイの拡大表示機能を使用します。
- 縦横比をカスタマイズする
  画面の縦横比を任意に変更して表示します。

POINT

- ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

■ グラフィックスカードを選択した場合

重要

- アナログディスプレイでは、この機能は使用できません。

1 デスクトップで右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

「NVIDIAコントロールパネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」→「デスクトップのサイズと位置の調整」の順にクリックします。

3 拡大表示設定を選択します。

・縦横比
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。

・全画面表示
画面がディスプレイ全体に拡大されます。

・スケーリングなし
画面は拡大されずに中央に表示されます。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

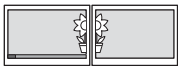
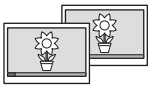
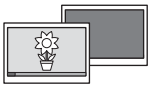
- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3 マルチディスプレイ機能

本ワークステーションに複数のディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→P.57）をご覧ください。

2.3.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。Windowsのタスクバーは1つのディスプレイにのみ表示され、このディスプレイをプライマリディスプレイと呼び、もう1つのディスプレイをセカンダリディスプレイと呼びます。それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

【Win】＋【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

2.3.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本ワークステーションの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 拡張デスクトップ表示では「WinDVD」の画面を2つのディスプレイの間で移動すると、一時的に再生が止まることがあります。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。

- 2台のディスプレイを接続している場合、POST画面やBIOSセットアップ画面は次のディスプレイコネクタに接続されたディスプレイに表示されます。
  - ・グラフィックスカードを選択しなかった場合
    DVI-Dおよびアナログ
  - ・Quadro 2000を選択し、DisplayPort1とDisplayPort2にディスプレイを接続している場合
    DisplayPort1
  - ・Quadro 2000を選択し、DisplayPort1とDVI-Iにディスプレイを接続している場合
    DVI-I
  - ・Quadro 600を選択した場合
    DVI-I
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.3.3　マルチディスプレイ機能を設定する

■ グラフィックスカードを選択しなかった場合

1 **デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**

「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。
「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2 **ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。**

3 **「動作モード」を選択します。**

・拡張デスクトップにする場合、「拡張デスクトップ」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
・クローン表示にする場合、「クローンディスプレイ」を選択します。
・シングル表示にする場合、「シングルディスプレイ」を選択します。

4 **必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、「解像度」、「色深度」（発色数）、「リフレッシュレート」を設定します。**

重要

- 拡張デスクトップやクローン表示にする場合、発色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。クローン表示にする場合は、解像度も同じ値を設定してください。

5 **「適用」をクリックします。**

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

■ グラフィックスカードを選択した場合

1 デスクトップで右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

2 「ディスプレイ」→「複数のディスプレイの設定」の順にクリックします。

・拡張デスクトップにする場合、2台のディスプレイにチェックを付け、表示されているディスプレイを右クリックし、「デスクトップをこのディスプレイに拡張する」をクリックします。
必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「＊」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
・クローン表示にする場合、2台のディスプレイにチェックを付け、表示されているディスプレイを右クリックし、「ディスプレイを複製する」をクリックします。
・シングル表示にする場合、表示する1台のディスプレイにのみチェックを付けます。

3 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

4 必要に応じて「ディスプレイ」→「解像度の変更」をクリックして、「解像度」、「色の深度」（発色数）、「リフレッシュレート」を設定し、「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4 サウンド

ここでは、音量の調節方法などについて説明しています。
オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.5.4 オーディオ端子」（→P.59）をご覧ください。

2.4.1 全体の再生音量を調節する

本ワークステーションに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

1. 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン をクリックします。
2. 音量を調節します。

2.4.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1. 音量を調節するソフトウェアを起動します。
2. 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
3. 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.4.3　機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.29）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.30）をご覧ください。

1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.5.4 オーディオ端子」（→P.59）

2 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。

3 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

4 「レベル」タブをクリックします。

5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	本ワークステーションに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	FrontMic	前面のマイク端子から入力される音の再生音量
	マイク	背面のマイク端子から入力される音の再生音量
	ライン入力	ラインイン端子から入力される音の再生音量
［ディスプレイ名］-2 注1注2	［ディスプレイ名］注1	DisplayPortまたはDisplayPort1に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量
［ディスプレイ名］-1 注1注3	［ディスプレイ名］注1	DisplayPort2に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1　：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。
注2　：Quadroシリーズ搭載機種でのみ表示されます。
注3　：Quadro 2000搭載機種でのみ表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク端子から入力される音の録音音量
	マイクブースト	マイクブーストのレベル
ライン入力	ライン入力	ラインイン端子から入力される音の録音音量

2.4.4　既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数利用可能な場合、既定の機器を選択できます。

1 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。

3 「OK」をクリックします。

2.5 省電力

ここでは、ワークステーションを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.5.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。
スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではハードディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。
また、本ワークステーションでは、ハイブリッドスリープにすることもできます。ハイブリッドスリープでは、作業中のデータをメモリとハードディスクの両方に保存します。そのため、電源が入っているときはスリープ状態のように素早くレジュームでき、電源が切れた場合でも元の状態にレジュームできます。ハイブリッドスリープが有効になっていると休止状態は使用できません。ハイブリッドスリープの設定を変更するには、「■ ハイブリッドスリープの設定を変更する」（→P.33）をご覧ください。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
「スタート」メニューから選択する	選択した動作になります。
電源ボタンを押す[注]	Windowsが終了し、電源が切れます。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.34）
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.34）

注 ：電源ボタンは４秒以上押さないでください。電源ボタンを４秒以上押すと、Windows が正常終了せずに本ワークステーションの電源が切れてしまいます。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
キーボードやマウスを操作する[注1]	レジュームします。
Wakeup on LAN（WoL）機能	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.32）

注1：休止状態からはレジュームしません。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。
電源オフ状態から起動する機能については、「6.4.4 Wakeup on LANを有効にする」（→P.104）をご覧ください。

1 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。

2 コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」

3 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。

4 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection

5 「電源の管理」タブをクリックします。

6 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

7 「OK」をクリックします。

■ ハイブリッドスリープの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

4 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。

5 設定を変更し、「OK」をクリックします。

2.5.2　電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてワークステーション本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切る前に、あらかじめディスクを取り出してください（→P.40）。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず30秒以上たってから電源を入れるようにしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、ワークステーション本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えるか電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、Windowsを終了させてワークステーション本体の電源を切ります。

□「スタート」メニューから操作する

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
しばらくするとWindowsが終了し、ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

POINT

- 「スタート」ボタン→ シャットダウン の ▷ →「再起動」の順にクリックすると、ワークステーション本体を再起動できます。

□ 電源ボタンを押す

1 電源ボタン（→P.12）を押します。

ご購入時の設定では、しばらくするとWindowsが終了し、ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

重要

- 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずにワークステーション本体の電源が切れてしまいます。

POINT

- 電源ボタンを押したときの動作を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.34）をご覧ください。

2.5.3 省電力設定

ご利用の状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約することができます。

■ 電源プランを切り替える

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をクリックし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

4 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

5 「OK」をクリックします。

2.5.4　「ディスプレイの電源を切る」

ディスプレイの電源を切り、消費電力を抑える機能です。マウスやキーボードを操作することで、すぐに元の画面に復帰できます。

■ 注意事項

- 映像を取り扱うソフトウェアを使用中は、「ディスプレイの電源を切る」を使用しないでください。
- Windowsの電源オプションと関係なく動作します。

■ デスクトップアイコンからディスプレイの電源を切る

1 デスクトップにある「ディスプレイの電源を切る」アイコン をダブルクリックします。

■「スタート」メニューからディスプレイの電源を切る

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ディスプレイの電源を切る」→「ディスプレイの電源を切る」の順にクリックします。

2.6 光学ドライブ

対 象　光学ドライブ搭載機種

ここでは、光学ドライブとCD／DVDなどのディスクの取り扱いについて説明しています。
ディスクの取り扱いについては、お使いのディスクのマニュアルをご覧ください。
また、光学ドライブの仕様については、「9.4 光学ドライブ」（→P.154）をご覧ください。

2.6.1 注意事項

- 光ディスクアクセスランプ（→P.13）が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因となりますので絶対に使わないでください。

2.6.2　使用できるディスク

■ 注意事項

- 直径8cmまたは直径12cm、厚さ1.14mm～1.5mmの円形のディスクのみ使用できます。
  ただし、直径8cmのディスクは、読み込みにのみ対応しています。それ以外のディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- ゆがんだディスク、重心の偏ったディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないディスクは、使用できない場合があります。
- ワークステーション本体を縦置きにしている場合、直径8cmのディスクは使用できません。
- 記載されているディスクが販売されていない場合もあります。

■ 使用できるディスク

お使いの光学ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ			DVD-ROM ドライブ		
	読込	書込	書換	読込	書込	書換
CD-ROM	○	×	×	○	×	×
音楽CD	○	×	×	○		
ビデオCD	○	×	×	×		
CD-R	○	○	×	○		
CD-RW 注1	○	○	○	○		
DVD-ROM	○	×	×	○		
DVD-Video	○	×	×	○		
DVD-R（4.7GB）	○	○	×	○		
DVD-R DL（8.5GB） 注2	○	○	×	○		
DVD-RW	○	○	○	○		
DVD+R（4.7GB）	○	○	×	○		
DVD+R DL（8.5GB）	○	○	×	○		
DVD+RW（4.7GB）	○	○	○	○		
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB） 注3	○	○	○	○		
DVD-RAM2 注3 注4	○	○	○	×		

注1 ：Ultra Speed CD-RWディスクは使用できません。
注2 ：追記はできません。また追記されたディスクの読み込みは保証しません。
注3 ：・カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。
　　・2.6GBおよび5.2GBのディスクは使用できません。
注4 ：スーパーマルチドライブ搭載時に使用できます。5倍速までの従来規格のDVD-RAMと異なり、6、8、12倍速に対応したDVD-RAMです。

■ 推奨ディスク

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

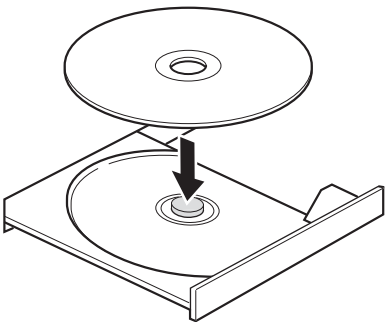
光学ドライブで書き込みや書き換えを行う場合は、次のディスクの使用をお勧めします。それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

ディスク種別	メーカー	型名
CD-R	太陽誘電（That's）	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	Verbatim（バーベイタム）	SW80EU5V1、SW80EM5V1、SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1
DVD-R	太陽誘電（That's）	DR-47WTY50BNT、DR-47WKY10SN、DR-47WWY50BN、DVD-R47XY10P
	Verbatim（バーベイタム）	DHR47J10V1、DHR47JM10V1、DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim（バーベイタム）	DHR85HP5V1
DVD-RW	Verbatim（バーベイタム）	DHW47RP1V1、DHW47Y10V1
DVD+R	太陽誘電（That's）	DR+47WTY10PN
DVD+R DL	Verbatim（バーベイタム）	DTR85HP5V1
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無）、LM-HC47MW5（4.7GB、カートリッジ無）、LM-HB47MA（4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）、LM-HB94M（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5S A（4.7GB、カートリッジ無）

2.6.3　ディスクをセットする

1 トレーを開きます。

2 ディスクをトレーに載せます。



3 トレーを閉じます。

重要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

POINT

- ディスクをセットしてから使用可能になるまで、少し時間がかかります。光ディスクアクセスランプ（→P.13）が消えてからディスクの操作を行ってください。

2.6.4　ディスクを取り出す

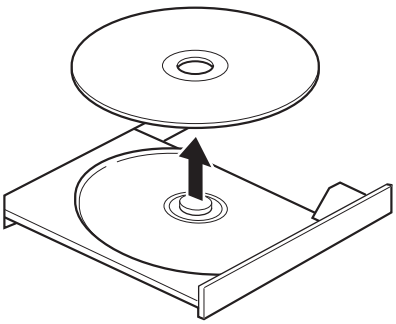
ディスクを取り出す前に、次のことを確認してください。

- 光ディスクアクセスランプ（→P.13）が点灯していないこと。
  光ディスクアクセスランプが消灯するまで待ってください。
- ソフトウェアがディスクを使用していないこと。
  ソフトウェアの機能を使ってトレーを開くか、ソフトウェアを終了してください。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ディスク上のファイルを開いていないこと。
  ファイルを閉じてください。

上記の項目を確認してもトレーが開かない場合は、本ワークステーションを再起動してください。本ワークステーションを再起動してもトレーが開かない場合は、「■ トレーを強制的に開く」（→P.40）をご覧ください。

1 トレーを開きます。

2 ディスクを取り出します。



3 トレーを閉じます。

重要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

■ トレーを強制的に開く

「2.6.4 ディスクを取り出す」（→P.40）の手順でトレーが開かない場合は、次の手順でトレーを開きます。

重要

- どうしてもトレーが開かない場合にのみ実行してください。

1 ワークステーション本体の電源を切ります。

2 強制取り出し穴（→P.13）に、太めのペーパークリップを伸ばしたものなどを、トレーが少し出てくるまで押し込みます。

3 トレーを静かに引き出します。

2.6.5　ディスクに書き込む

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

記録可能ディスクに書き込むには「Roxio Creator」（→P.78）を使用します。詳しくは、次の手順で「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio Creator LJ」→「Roxio Creator LJ」の順にクリックします。

2 「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックします。

POINT

- DVD-RAMはフォーマットすることにより、USBメモリのように直接Windowsエクスプローラーなどで書き込むことができます。DVD-RAMをフォーマットするには「■ DVD-RAMをフォーマットする」（→P.42）をご覧ください。

■ 注意事項

- 本ワークステーションで作成したディスクは、ディスクの種類や書き込み形式などにより他の機器では使用できない場合があります。お使いの機器で使用できるディスクの種類や書き込み形式などについては、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。また、ディスクの記録状態によっても使用できない場合があります。
- ディスクに書き込み中は、ワークステーション本体の電源を切ったり、再起動したり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。また、省電力状態にもしないでください。
- ディスクへの書き込みには高い処理能力が必要です。ディスクに書き込み中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。
- 自動再生が有効に設定されていると、ディスクへの書き込みができない場合があります。その場合は次の手順で自動再生を無効に設定してください。
  1. コントロールパネルの「自動再生」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「自動再生」
  2. 「すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う」のチェックを外し、「保存」をクリックします。
- 「Roxio Creator」は、パケットライトによる書き込みには対応していません。
- 外付け光学ドライブをお使いになる場合も、外付け光学ドライブに添付されている「Roxio Creator」ではなく、本ワークステーションの「Roxio Creator」をお使いください。
- DVD+R DLにデータを書き込む場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」（約512MB）が書き込まれます。このため、書き込み可能な最大容量は約7.99GBとなります。

■ DVD-RAMをフォーマットする

DVD-RAMを初めてお使いになる場合や、すべてのデータを消去する場合は次の手順でDVD-RAMをフォーマットします。

POINT

- 両面タイプのDVD-RAMディスクは片面ごとにフォーマットします。

1. フォーマットするDVD-RAMをセットします（→P.39）。
2. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックし、「コンピューター」を表示します。
3. 光学ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
4. 必要に応じて「ファイルシステム」などを設定します。
5. 「開始」をクリックし、以降は表示されるメッセージに従います。

2.6.6　DVD-Videoを再生する

DVD-Videoは「WinDVD」（→P.78）で再生します。詳しくは、次の手順で「WinDVD」のヘルプをご覧ください。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Corel」→「Corel WinDVD」の順にクリックします。
2. 右上の「？」アイコンをクリックします。

■ 注意事項

- すべてのDVD-Videoの再生を保証するものではありません。
- DVD-Videoの再生には高い処理能力が必要です。DVD-Videoの再生中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。
- 「WinDVD」ではビデオCDは再生できません。「Windows Media Player」で再生してください。
- ディスクによっては、専用の再生ソフトウェアが添付されているものがあります。ディスクに添付されている再生ソフトウェアをインストールした場合、そのソフトウェアによる再生および「WinDVD」での再生は保証しません。

- リージョンコードについて
  - ・本ワークステーションのリージョンコードがDVD-Videoのリージョンコードに含まれているか、リージョンフリーのDVD-Videoのみ再生できます。DVD-Videoのリージョンコードは、ディスクまたはパッケージに記載されています。ご購入時の本ワークステーションのリージョンコードは日本国内向けに設定されています。
  - ・本ワークステーションに設定されているリージョンコードと異なるリージョンコードのDVD-Videoを再生しようとすると、リージョンコードの変更を確認する画面が表示されます。必要に応じてリージョンコードを変更してください。
  - ・本ワークステーションのリージョンコードはご購入後4回まで変更できます。

2.7 通信

ここでは本ワークステーションの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。

2.7.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.5.5 LANコネクタ」（→P.60）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- Link速度を1Gbpsに固定して接続することはできません。
- Link速度を100/10Mbpsに固定して接続する場合、オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
  ・Linkランプが点灯しない
  ・通信できない
  ・通信速度が異常に遅い
- 本ワークステーションに搭載されている LAN デバイスには節電機能があります。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度を下げることにより電力消費を抑えるものです。
  ご購入時の設定ではこの機能は有効に設定されていますが、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。これにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」（→P.44）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。
  ・LAN デバイスの設定で、「リンク速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
  ・本ワークステーションを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているとき

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

1 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。

2 コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」

3 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。

4 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection

5 「詳細設定」タブをクリックします。

6 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「オン」（有効）または「オフ」（無効）を選択します。

7 「OK」をクリックします。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1　周辺機器を取り付ける前に 47
3.2　本体カバー 48
3.3　メモリ 50
3.4　拡張カード 53
3.5　コネクタの接続／取り外し 56

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本ワークステーションに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
  やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからワークステーション本体の電源を入れ、ワークステーション本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 本体カバー

ワークステーション本体内部に周辺機器を取り付けたり取り外したりする場合には、本体カバーを取り外す必要があります。ここでは本体カバーの取り付け／取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.47）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- 本体カバーを取り外す、または取り付けるときは、必ずワークステーション本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えて電源ケーブルを抜いてください。
- 作業はワークステーション本体が滑らないような平らな台の上で行ってください。
- ワークステーション本体を横に倒す必要があります。充分なスペースを確保してください。
- プラスドライバー（2番）を用意してください。

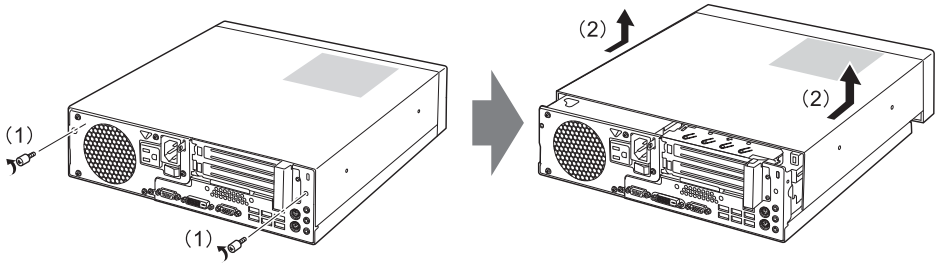
3.2.2 本体カバーを取り外す

1 ワークステーション本体および接続されている周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 フット（→P.12）を取り付けている場合は、フットを取り外します。

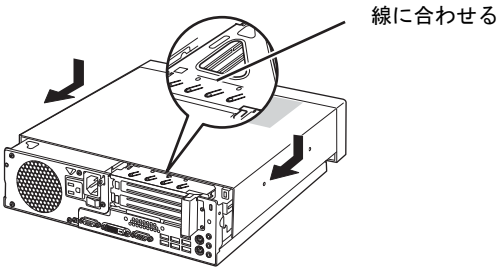
3 ワークステーション本体を横置きにします。

4 （1）ワークステーション本体背面のネジ（2ヶ所）を外し、（2）本体カバーをワークステーション本体前面側にスライドさせてから上に持ち上げて取り外します。
お使いの機種により、本体カバーの取り外しが固く感じる場合があります。



3.2.3　本体カバーを取り付ける

1　線に合わせて本体カバーをまっすぐに下ろし、本体背面側にスライドさせます。



2　ネジ（2ヶ所）で固定します。

3.3 メモリ

ここでは、本ワークステーションにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.47）をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずワークステーション本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えて電源ケーブルを抜いてください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。

3.3.2 取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けないでください。

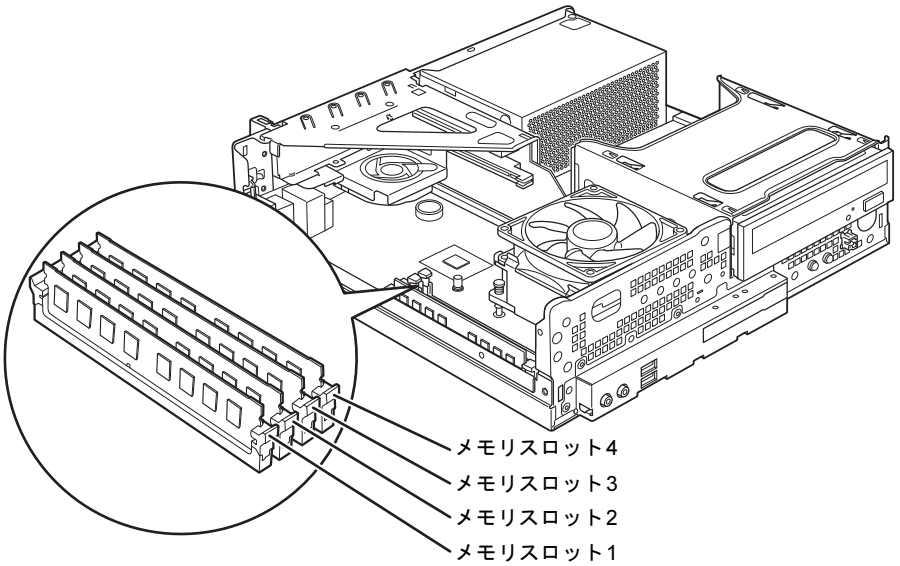
メモリスロット1	メモリスロット2	メモリスロット3	メモリスロット4	総容量	Windows 7（64ビット版）	Windows 7（32ビット版）
2GB	—	—	—	2GB注1	○	○
2GB	—	2GB	—	4GB	○	○注2
4GB	—	4GB	—	8GB	○	-
2GB	2GB	2GB	2GB	8GB	○	-
2GB	4GB	2GB	4GB	12GB	○	-
4GB	2GB	4GB	2GB	12GB	○	-
4GB	4GB	4GB	4GB	16GB	○	-

注1 ： 別売のメモリは2枚セットになっています。
メモリを増設する場合は、取り付けられているメモリを取り外してから、2枚セットの別売のメモリを取り付けてください。
注2 ： OSが使用可能な領域は約3GBになります。

3.3.3　メモリを取り付ける

1 本体カバーを取り外します（→P.48）。

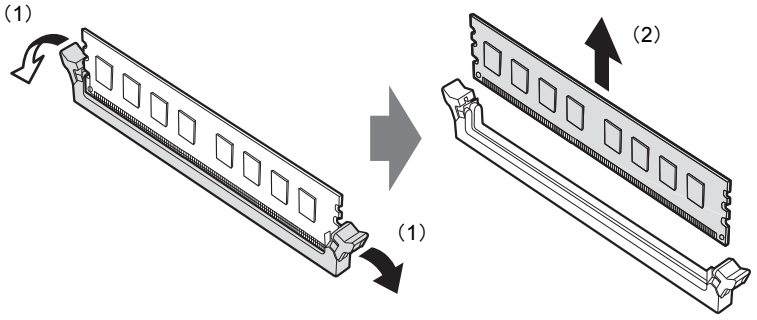
2 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。



●メモリスロットにメモリが取り付けられている場合
（1）メモリスロットの両側のフックをゆっくりと外側に開いてメモリの固定を解除し、（2）メモリのふちを持って真上にまっすぐ引き抜きます。

重要

- フックを勢いよく開かないでください。フックを勢いよく開くとメモリが飛び出し、故障の原因となります。

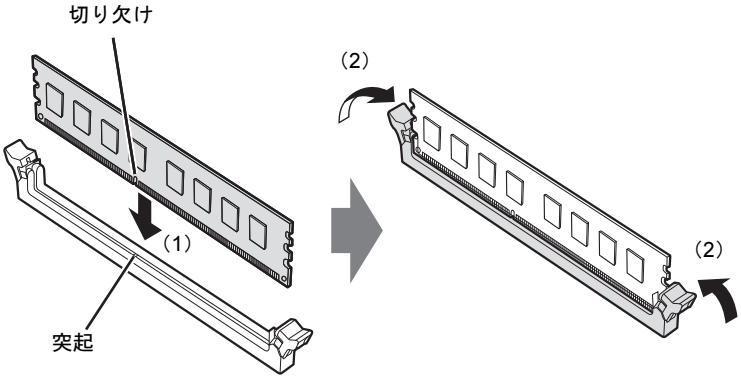


●メモリスロットにメモリが取り付けられていない場合
メモリスロットの両側のフックを外側に開きます。

3 拡張カードを取り付けている場合、メモリスロット3、4にメモリを取り付けるときに、「拡張カード取り付け金具」を取り外す必要があります。

4 メモリを取り付けます。

(1) メモリの欠けている部分とメモリスロットの突起を合わせて真上から差し込み、
(2) メモリスロットの両側のフックが閉じてメモリを固定するまで、押し込みます。
フックがメモリを固定していることを確認してください。



（突起の位置は機種により異なります）

重要

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 本体カバーを取り付けます（→P.49）。

6 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.86）をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本ワークステーションが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.3.4　メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重要

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。
- 空きメモリスロットは、フックを閉じた状態にしておいてください。

3.4 拡張カード

本ワークステーションに拡張カードを取り付けると、本ワークステーションの機能を拡張できます。ここでは拡張カードの取り付け、取り外しについて説明しています。
取り付ける拡張カードのマニュアルもあわせてご覧ください。また、拡張カードスロットの空き数や仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.47）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- 拡張カードを取り付ける、または取り外すときは、必ずワークステーション本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えて電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 拡張カードは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。拡張カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 拡張カードに起動ROMが搭載されている場合、拡張カードの取り付けや取り外しを行うと起動デバイスの優先順位が変わるため、本ワークステーションが起動できなくなることがあります。「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.102）をご覧になり、起動デバイスの設定をしてください。
- 増設する拡張カードに起動ROM（BIOS）が搭載されている場合、その種類や増設数により、システム起動時にエラーメッセージが表示され、起動できない場合があります。この場合は、増設する拡張カードのBIOSを無効にすることにより、現象を回避できることがあります。増設する拡張カードのBIOSを無効にする方法は、拡張カードのマニュアルをご覧ください。
- ご購入時の構成によっては、使用できない拡張カードスロットがあります。
- 拡張カードを取り付けない拡張カードスロットには、必ずスロットカバーを取り付けてお使いください。

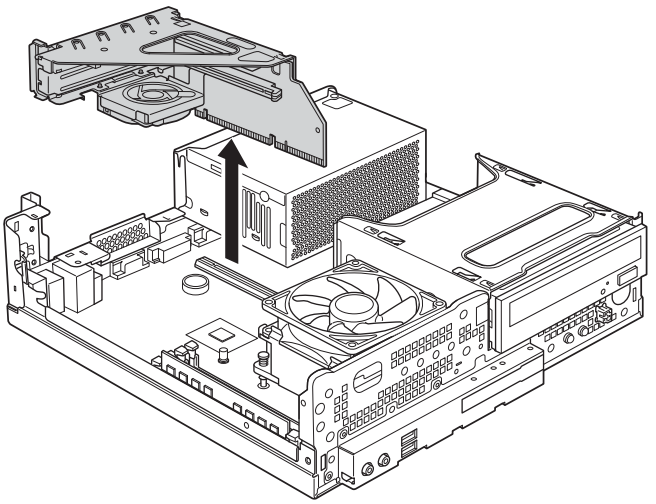
3.4.2　拡張カードを取り付ける

1 本体カバーを取り外します（→P.48）。

2 拡張カード取り付け金具を真上にまっすぐ引き抜きます。

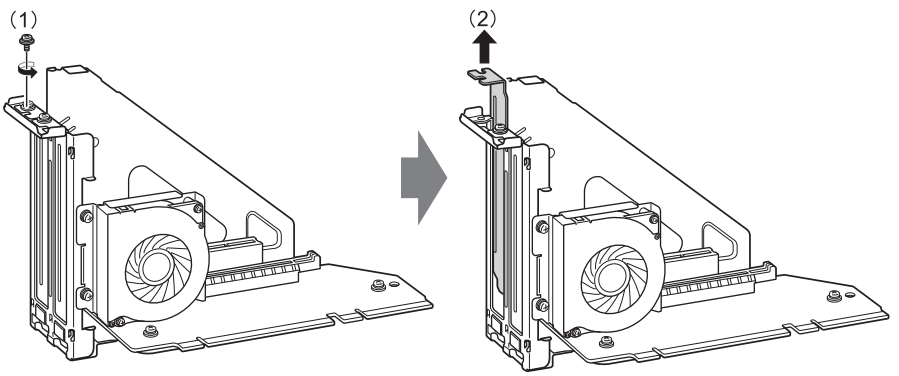
重要

- ケーブルが接続された拡張カードが取り付けられている場合は、接続されているケーブルとケーブルの接続されているコネクタの対応をメモしてからケーブルを抜き、その後拡張カード取り付け金具を抜いてください。



3 拡張カードスロットを確認します（→P.16）。

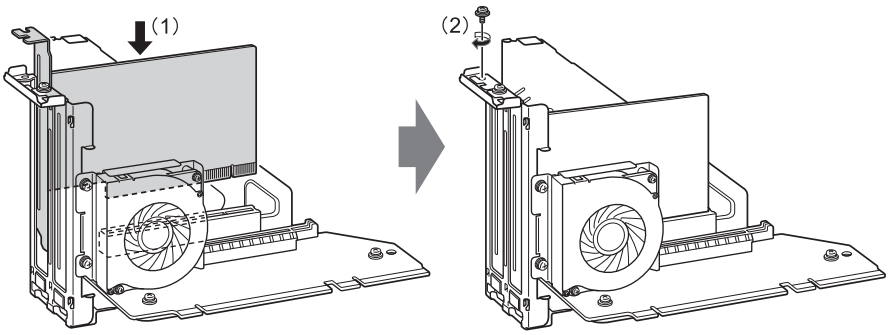
4 （1）スロットカバーを固定しているネジを外し、（2）スロットカバーを取り外します。



重要

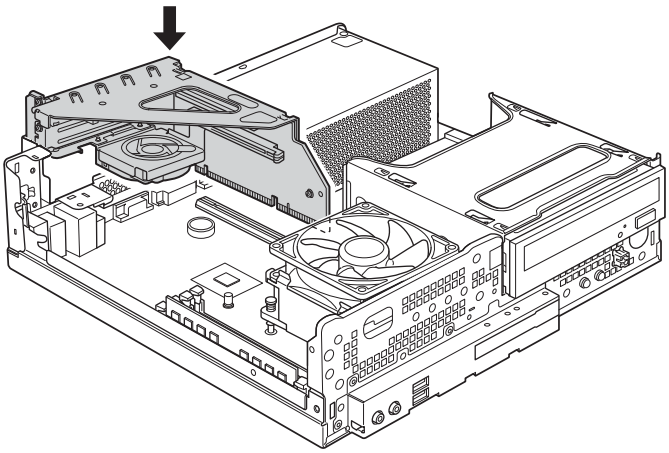
- 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

5 （1）拡張カードを真上から奥まで押し込み、（2）ネジを締めて固定します。



6 拡張カード取り付け金具をワークステーション本体に取り付けます。

拡張カード取り付け金具とワークステーション本体の突起部分を合わせ、真上から奥まで差し込みます。



7 手順2でケーブルを抜いた場合は、同じコネクタに接続し直します。

8 本体カバーを取り付けます（→P.49）。

重要

- 拡張カードが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり画面に何も表示されなかったりすることがあります。
  その場合は電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切り、拡張カードを取り付け直してください。それでも拡張カードが正常に機能しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.4.3　拡張カードを取り外す

拡張カードを取り外す場合は、「3.4.2 拡張カードを取り付ける」（→P.54）をご覧になり、「スロットカバー」と「拡張カード」を読み替えて作業してください。

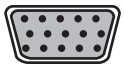
3.5 コネクタの接続／取り外し

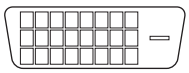
ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.47）をお読みになってから作業をしてください。

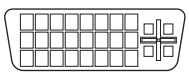
3.5.1 注意事項

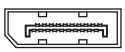
- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずワークステーション本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.5.2　ディスプレイコネクタ


アナログディスプレイコネクタ


デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）


デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）


DisplayPortコネクタ

ディスプレイを接続します。ワークステーション本体の電源を切ってから接続してください。

重要

- グラフィックスカードを搭載している場合、ワークステーション本体のディスプレイコネクタは使用できません。
- Quadro2000を選択した場合は、次の表でディスプレイとディスプレイコネクタの組み合わせを確認し、正しく接続してください。

ディスプレイの台数	DVI-I 注1	DisplayPort1	DisplayPort2 注2
1	○	－	－
	－	○	－
2	○	○ 注3	－
	－	○	○

注1：アナログディスプレイを接続する場合は、別売のDVI-VGA変換アダプタを使用してください。
注2：別売の DP-DVI 変換ケーブルは使用しないでください。
注3：デジタルディスプレイ（DVI）を接続する場合は、別売の DP-DVI 変換ケーブルを使用してください。

■ 接続する

1 ワークステーション本体の電源を切ります。

2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
・アナログディスプレイコネクタ
・デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）
・デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）

3 ワークステーション本体の電源を入れてから、ディスプレイの電源を入れます。

■ 取り外す

重要

- マルチディスプレイ機能（→P.25）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□ アナログディスプレイコネクタ

1. ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

□ デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）

1. ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

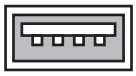
□ デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）

1. ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

□ DisplayPortコネクタ

1. ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

3.5.3　USBコネクタ



USB対応周辺機器を接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
1. 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.4　オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- マイク端子やラインイン端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

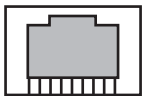
■ 接続する

1 マイク端子、ヘッドホン端子、ラインイン端子、またはラインアウト端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。
ワークステーション本体前面と背面にあるマイク端子は、後から接続したほうが有効になります。両方に接続した状態で電源を入れると、背面のマイク端子が有効になります。

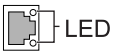
■ 取り外す

1　ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.5　LANコネクタ



LANケーブルを接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。
LEDの意味は、次のとおりです。



	上部LED（Speed）	下部LED（Link/Act）
1000MbpsでLinkを確立	オレンジ点灯	緑色点灯注
100MbpsでLinkを確立	緑色点灯	緑色点灯注
10MbpsでLinkを確立	消灯	緑色点灯注

注：データ転送中は緑色点滅

重要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

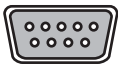
■ 接続する

1　LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1　コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

3.5.6　シリアルコネクタ



シリアル対応周辺機器を接続します。ワークステーション本体の電源を切ってから接続または取り外しを行ってください。

■ 接続する

1. ワークステーション本体の電源を切ります。
2. シリアルコネクタにシリアル対応周辺機器のケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。
3. シリアル対応周辺機器の電源を入れてから、ワークステーション本体の電源を入れます。

■ 取り外す

1. ワークステーション本体の電源を切ってから、シリアル対応周辺機器の電源を切ります。
2. コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

4

第4章

セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

4.1　コンピューターウイルス 63
4.2　Windowsやソフトウェアを最新の状態にする 64
4.3　不正使用からのセキュリティ 65
4.4　ワークステーションの盗難防止 67
4.5　ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意 69
4.6　データのバックアップ 72

4.1 コンピューターウイルス

4.1.1 コンピューターウイルス対策

■ ノートン アンチウイルス

本ワークステーションには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「ノートン アンチウイルス」が添付されています。

□ 注意事項

- 「ノートン アンチウイルス」を起動していると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。ご注意ください。

□ インストール方法

「5.2.2 「ノートン アンチウイルス」のインストール」（→P.82）をご覧ください。

□ ウイルス定義ファイルの更新（LiveUpdate）

「ノートン アンチウイルス」のウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。ウイルス定義ファイルは、自動的に更新する方法と、手動で更新する方法があります。詳しくは「ノートン アンチウイルス」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする

Windowsやソフトウェアのぜい弱性が悪用されると、コンピューターウイルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。
Windowsやソフトウェアの修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

4.2.1 Windows Update

マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windowsを最新の状態に更新します。ぜい弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）

弊社が提供するサポート機能です。お使いのコンピューターのドライバーや添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているか調査し、適用することができます。スタートメニューの「UpdateAdvisor（本体装置）」から起動できます。

4.3 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用からワークステーションを守るため、本ワークステーションで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

重要

- コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

4.3.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけがワークステーションを起動できます。
また、コンピューターのハードディスク自体にパスワードを設定できます。
詳しくは、「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.99）をご覧ください。

4.3.2 セキュリティチップ

対象　セキュリティチップ搭載機種

セキュリティチップは、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。
セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。

POINT

- セキュリティチップを使った、SMARTACCESS/Basic（Jシリーズのみ添付）の機器監査機能は使用できません。
  詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.3 Portshutter

USBポートや光学ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。USB機器ごとに接続ポートの有効・無効を設定できます。
詳しくは、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

4.3.4　エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファー・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。
詳しくは、「9.2 CPU」（→P.151）をご覧ください。

4.4 ワークステーションの盗難防止

ワークステーション本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失によりデータを盗まれるなどの危険から保護します。

4.4.1 ワークステーション本体の施錠方法

ワークステーション本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。
盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「1章　各部名称」（→P.11）をご覧ください。

POINT

- 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

4.4.2 セキュリティ施錠金具の使用方法

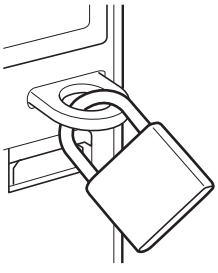
対 象　セキュリティ施錠金具対応機種（Jシリーズ）

1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。
本体カバーの取り扱い方は、「3.2 本体カバー」（→P.48）をご覧ください。

POINT

- セキュリティ施錠金具の穴径は、φ8mm です。

2 セキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。
セキュリティ施錠金具の位置は、「1.2 ワークステーション本体背面」（→P.14）をご覧ください。



（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

- 市販の鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

4.4.3　本体カバーキーの施錠方法

対 象　本体カバーキー対応機種（Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズ）

1 ワークステーション本体側面の鍵穴に、添付の本体カバーキーを差し込み、右に回します。

本体カバーキーの場所については、「1章　各部名称」（→P.11）をご覧ください。

重要

- 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- 本体カバーキーを紛失した場合は、本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
  鍵の紛失による本体カバーの交換は、保証期間にかかわらず有償となります。また、即日修理ができません。あらかじめご了承ください。

4.5 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、ワークステーションを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

4.5.1 ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

ワークステーションは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのワークステーションの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
① データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このワークステーションのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。
ワークステーションユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

4.5.2　ハードディスクデータ消去

本ワークステーションには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- ワークステーション本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクのリカバリ領域も消去されます。
  必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を起動してから、72時間経過すると、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- 光学ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。外付け光学ドライブは、添付のACアダプタを接続した状態で使用します。
  外付け光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を用意してください。

1 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」をセットします。

2 「6.2.5 起動メニューを使用する」（→P.89）をご覧になり、光学ドライブから起動します。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

3 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

4 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

重要

- フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、ハードディスクデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

5 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を取り出します。

6 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

4.6 データのバックアップ

本ワークステーションには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup2」が添付されています。必要に応じてお使いください。
「Easy Backup2」のインストール方法については、「5.2 インストール」(→P.80) をご覧ください。

5

第5章

ソフトウェア

本ワークステーションにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

5.1　ソフトウェアの紹介 74
5.2　インストール 80
5.3　アンインストール 83

5.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本ワークステーションにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」などに格納されています。
また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。
各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
  「5.2 インストール」（→P.80）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
  インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/celsius/manual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- 提供形態について
  ▼：ご購入時にインストール済み
  ◇：Cドライブに格納（ご購入時にはインストールされていません）
  ○：「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納
  ☆：各ソフトウェアのディスクに格納
  ▽：富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）からダウンロードして取得

  「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本ワークステーションのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

5.1.2　セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.74）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。 ・お使いになるには、「Windows® Internet Explorer® 7」以降が必要です。	◇
Portshutter	USBポートや光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	○
SMARTACCESS/ Basic	対 象 **セキュリティチップ搭載機種（Jシリーズ）** セキュリティチップを使用するためのソフトウェアです。	○
ノートン アンチウイルス	コンピューターウイルスを検出・駆除します。 詳しくは、「4.1.1 コンピューターウイルス対策」（→P.63）をご覧ください。 ユーザー登録をすると「シマンテック・テクニカル・サポートセンター」をご利用になれます。 詳しくは、「8.3.1 お問い合わせ先」（→P.144）をご覧ください。	◇
ハードディスク データ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「4.5.2 ハードディスクデータ消去」（→P.70）をご覧ください。	○

5.1.3　サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.74）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
PC乗換ガイド	今までお使いになっていたワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	○
UpdateAdvisor （本体装置）	お使いのワークステーションのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのワークステーションの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	▼

5.1.4　ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.74）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。	▼
Easy Backup2	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	○
T-SATA2R Manager	対 象 RAID搭載機種 Windows上でディスクアレイの状態監視やメンテナンスなどを行うためのRAID管理ユーティリティです。 詳しくは、『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。	▼
ディスプレイの電源を切る	簡単な操作でディスプレイの電源を入れたり、切ったりできます。詳しくは、「2.5.4 「ディスプレイの電源を切る」」（→P.35）をご覧ください。	▼
富士通モニタユーティリティ	「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイを接続し、プライマリモニターに設定した場合に使用できます。ソフトウェアごとに画質モードを登録し、そのソフトウェアを起動すると自動的に登録された画質モードに切り替えたり、ディスプレイのボタンを使わずに画質や表示サイズなどを設定したりすることができます。 「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイについては、ディスプレイに添付のマニュアルまたは富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にあるディスプレイの製品情報をご覧ください。	○
ゆったり設定2	ワークステーションをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	○

5.1.5　CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.74）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Roxio Creator	ワークステーションのデータをCD、DVDに保存できます。 使用方法については、「2.6.5 ディスクに書き込む」（→P.41）およびソフトウェアのヘルプをご覧ください。	▼
WinDVD	対 象 **スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種（Rシリーズ、Mシリーズを除く）、 DVD-ROMドライブ（ユニット）搭載機種** 映画や音楽などのDVDを再生できます。 使用方法については、「2章　取り扱い」（→P.20）の「DVD-Videoを再生する」をご覧ください。	☆

5.1.6　メールソフト

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.74）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。	▼

5.1.7　Office製品

対 象　M720、W520、J520

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時にOfficeはインストールされています。お客様が作成したリカバリデータディスクでリカバリを実行した場合、Officeはインストールされます。

POINT

- 製品に添付されているリカバリデータディスクを使用してリカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。添付のOfficeパッケージのディスクから、別途インストールしてください。

Officeをお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.74）をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要／提供形態	
Microsoft® Office Home and Business 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算	
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理	
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション	
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート	
Microsoft® Office Personal 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算	
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理	

5.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

重要

- 誤ったドライバーをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンしてからインストールしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

・トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
・「Corel® WinDVD®」ディスク

重要

- これらのディスクは、本ワークステーションのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本ワークステーションに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
  2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
  3. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「カスタムメイド」または「任意」を選択します。

5 インストールするソフトウェアを選択します。

「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールしてください。

次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

- Portshutter

  「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。
- WinDVD

  表示されたフォルダー内の「DVDreadme.txt」をご覧ください。

5.2.2　「ノートン アンチウイルス」のインストール

Cドライブに格納されています。

1 次のファイルを実行し、表示されるメッセージに従ってインストールします。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥NAV¥Fujitsu_Ltd_NAV_19.0_OEM90_21194698.exe

2 インストールが完了したら本ワークステーションを再起動します。

5.2.3　「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥Readme.txt

5.2.4　「SMARTACCESS/Basic」のインストール

対 象　セキュリティチップ搭載機種（Jシリーズ）

「SMARTACCESS/Basic」は「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

5.2.5　Office製品のインストール

Office製品のインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。インストール後は「Windows Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください。

5.3 アンインストール

5.3.1 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
  ・セキュリティチップ

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1 BIOSセットアップ 85
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 86
6.3 メニュー詳細 90
6.4 設定事例集 99
6.5 ME BIOS Extension 106

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本ワークステーションご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・セキュリティチップの設定を変更するとき
・Wakeup on LANの設定を変更するとき
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本ワークステーションが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本ワークステーションを再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 【F2】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

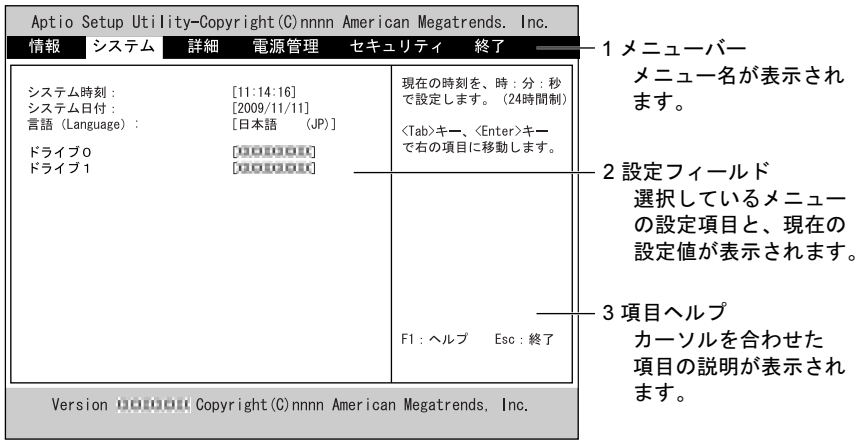
2 「FUJITSU」のロゴが表示された後、BIOSセットアップ画面が表示されたら、【F2】キーを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.101）してください。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を切ってもう一度操作してください。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「6.2.3 各キーの役割」（→P.87）をご覧ください。



（機種により表示が異なる場合があります）

6.2.3　各キーの役割

BIOSセットアップで使う、主なキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOSセットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーまたは【Enter】キーを押します。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。 【Page Down】【Page Up】キーを押すと、ページ単位でカーソルを移動することができます。
【－】【Space】キー	各項目の設定値を変更します。
【Esc】キー	「終了」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	・▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。 ・設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。

6.2.4　BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。

2 「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了します。「変更を保存して終了する（再起動）」を選択した場合はWindowsが起動し、「変更を保存して終了する（電源OFF）」を選択した場合はワークステーションの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。

2 「変更を保存せずに終了する（起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

6.2.5　起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本ワークステーションを起動します。「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」から本ワークステーションを起動する場合などに使用します。

重要

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。

1 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

2 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。

パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.101）してください。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を切ってもう一度操作してください。

3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。

選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。

POINT

- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
  光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

6.3 メニュー詳細

ここでは、BIOSセットアップのメニューについて説明しています。
BIOSセットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー	説明
情報　（→P.91）	BIOSやワークステーション本体についての情報が表示されます。
システム　（→P.92）	日時や言語、ドライブの機能などを設定します。
詳細　（→P.93）	CPUや内蔵デバイス、周辺機器などを設定します。
電源管理　（→P.96）	停電復旧時の動作や、Wakeup on LAN機能などを設定します。
セキュリティ　（→P.97）	パスワードなどのセキュリティ機能を設定します。
終了　（→P.98）	設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

重要

- BIOSセットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。
  あらかじめご了承ください。

POINT

- ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動すると、設定変更のできる項目が制限されます。制限された項目はグレーに表示されます。
  - ・次の表は、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合に変更できる項目です。

メニュー	設定項目	
システム	システム時刻	
	システム日付	
詳細	イベントログ設定	イベントログの表示
セキュリティ	ユーザー用パスワード設定	
終了	変更を保存して終了する（再起動）	
	変更を保存して終了する（電源OFF）	
	変更を保存せずに終了する（起動）	

6.3.1　情報メニュー

BIOSやワークステーション本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

設定項目		備考
型名		
カスタムメイド番号		
製造番号		
BIOS版数		
CPUタイプ		
全メモリ容量		1MB=1024^2バイト換算
	メモリスロット1	1MB=1024^2バイト換算
	メモリスロット2	1MB=1024^2バイト換算
	メモリスロット3	1MB=1024^2バイト換算
	メモリスロット4	1MB=1024^2バイト換算
MACアドレス		
UUID		

6.3.2　システムメニュー

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
システム時刻 00：00：00～23：59：59	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】＋【Tab】キー……左の項目に移動
システム日付 2000/01/01～2099/12/31	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】＋【Tab】キー……左の項目に移動
言語（Language） □English（US）　■日本語（JP）	「標準設定値を読み込む」を実行しても変更されない
ドライブ0	カスタムメイドでHDD変更（RAID）選択時のデバイス名称は「TSATA2R2」
ドライブ0 □使用しない　■使用する	
タイプ	
型名	
容量	1GB=1000^3バイト換算
ドライブ1	
ドライブ1 □使用しない　■使用する	
ドライブ4	
ドライブ4 □使用しない　■使用する	
回転速度 □低速　□中速　■高速	光学ドライブ搭載機種のみ表示
タイプ	光学ドライブ搭載機種のみ表示
型名	光学ドライブ搭載機種のみ表示

6.3.3　詳細メニュー

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
起動デバイスの優先順位 1.起動デバイス ■取外し可能なドライブ □ハードディスクドライブ □CD/DVD ドライブ □ネットワーク起動 2.起動デバイス □取外し可能なドライブ ■ハードディスクドライブ □CD/DVD ドライブ □ネットワーク起動 3.起動デバイス □取外し可能なドライブ □ハードディスクドライブ ■CD/DVD ドライブ □ネットワーク起動 4.起動デバイス □取外し可能なドライブ □ハードディスクドライブ □CD/DVD ドライブ ■ネットワーク起動	OS を読み込むデバイスの優先順位を設定 注1 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.102）
取外し可能なドライブの優先順位 1.ドライブ ■［デバイス名］　□使用しない	取外し可能なドライブが複数接続されている場合のそれぞれの優先順位 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.102）
ハードディスクドライブの優先順位 1.ドライブ ■［デバイス名］　□使用しない	ハードディスクドライブが複数接続されている場合のそれぞれの優先順位 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.102）
CD/DVD ドライブの優先順位 1.ドライブ ■［デバイス名］　□使用しない	CD/DVD ドライブが複数接続されている場合のそれぞれの優先順位 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.102）
ネットワーク起動デバイスの優先順位 1.ドライブ ■［デバイス名］　□使用しない	ネットワーク起動に対応したネットワークアダプタが複数搭載されている場合の、それぞれの優先順位 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.102）
起動メニュー □使用しない　■使用する	【F12】キーによる起動メニュー呼び出しの設定 ・「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 ・管理者用パスワード削除時は初期値に戻る
起動時の自己診断画面 ■使用しない　□使用する	「使用しない」設定時は「FUJITSU」ロゴを表示
ディスプレイ出力の優先順位 ■PCIE,PCI,IGD　□PCI,PCIE,IGD □内蔵ビデオ	左から順にプライマリディスプレイを検出します。

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
内蔵グラフィックス(IGD) □使用しない　□使用する ■自動	「自動」…ディスプレイ出力の優先順位で拡張ビデオデバイスが優先されている場合は内蔵ビデオを使用できません。
起動時のNumLock設定 ■オン　□オフ	Windowsログオン後は前回終了時の状態になる
エラー停止 ■全てのデバイス □キーボード以外　□なし	POSTエラー検出時に起動停止する／しないの設定 注2
HTテクノロジー □使用しない　■使用する	対応CPU搭載時のみ表示
マルチコア ■使用する　□使用しない	対応CPU搭載時のみ表示
USBコントローラー □使用しない　■使用する □背面のみ	
内蔵USB3.0コントローラー □使用しない　■使用する	「使用しない」…内蔵USB3.0コントローラーを使用禁止にします。USB3.0ポートは、USB2.0ポートとして機能します。
USBレガシーサポート □キーボード/マウス □使用しない ■使用する	
内蔵LANデバイス ■使用する　□使用しない	
ネットワークからの起動 ■PXE　□使用しない	標準搭載のLANに対してのみ有効
SATAモード □IDE　■AHCI	
Intel(R) ME設定	
Intel(R) ME設定メニュー ＞Enter	再起動後にME設定メニューに入ります。
Intel(R) AMT Fast Call for Help ＞Enter	・再起動後に確認メッセージ表示 ・管理サーバーが設定されていない場合は使用禁止 ・対応CPU搭載時のみ表示
Intel(R) ME設定のクリア ＞Enter	・再起動後に確認メッセージ表示 ・「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能
SOLコンソールタイプ □VT-100+　■VT-UTF8　□ANSI	
シリアルポート設定	
シリアルポート ■使用する　□使用しない	
I/Oアドレス，割り込み番号 ■3F8/IRQ 4　□2F8/IRQ 3 □3E8/IRQ 4　□2E8/IRQ 3	「シリアルポート」が「使用する」時のみ表示

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
システム監視	メインボードに搭載されているハードウェアモニター機能によって、本ワークステーションの状態が表示されます。設定の変更はできません。
Temperature	
CPU	CPUの現在の温度を、しきい値からの相対値で表示
RISER	温度センサーの現在の温度
SYSTEM	温度センサー（SYSTEM）（→P.17）の現在の温度
Fan	
CPU	CPUファンの現在の回転数（rpm）
SYSTEM	システムファンの現在の回転数（rpm）
イベントログ設定	
イベントログ領域の状態	
イベントログ内容の状態	
イベントログの表示 ＞Enter	
イベントログの消去 ＞Enter	
イベントログ □保存しない　■保存する	

注1：ネットワークサーバーから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

注2：本設定で停止しないよう設定したデバイスのエラーでも、エラーメッセージは表示され、イベントログにも記録されます。
ただし、「キーボード以外」でキーボードエラーを検出した場合は、POSTエラーは表示されず、イベントログにも記録されません。

6.3.4　電源管理メニュー

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
AC通電再開時の動作 □電源ON □電源OFF □自動 ■使用しない	・設定変更は再起動後に有効 ・電源OFF……通電再開時に一瞬電源が入り、WOLなどを初期化。その後電源OFF。 ・自動……電源断発生時の状態による。 起動中、スリープは「電源ON」 シャットダウン、休止状態は「電源OFF」 ・注1
LANによるウェイクアップ ■使用しない　□使用する	・設定変更は再起動後に有効 ・注3 ・注5
時刻による電源ON ■使用しない　□使用する	・設定変更は再起動後に有効 ・注2 ・注4
時刻 00：00：00～23：59：59	「時刻による電源ON」が「使用する」時のみ設定可能
日付 00～31	・00……毎日指定時刻に起動 ・「時刻による電源ON」が「使用する」時のみ設定可能

注1：UPSなどを使って通電再開時に電源を投入させたい場合は、「電源ON」に設定してください。
注2：「AC通電再開時の動作」を「使用しない」に設定した場合、停電などのAC電源切断が発生すると、次に本製品の電源を入れるまで本機能は使用できなくなります。
注3：省電力状態（スリープ、休止状態）からレジューム（復帰）させることはできません。デバイスマネージャーでの設定が必要です。
注4：省電力状態（スリープ、休止状態）からレジューム（復帰）させることはできません。タスクスケジューラまたはタスクでの設定が必要です。
注5：Wakeup on LANをお使いになる場合の注意事項です。
停電などのAC電源切断が発生した場合、BIOSセットアップの設定と使用するデバイスの組み合わせによっては、通電再開後、本ワークステーションの電源を入れるまでWakeup on LANが使用できなくなります。
本機能を通電再開後も使用するには、Wakeup on LANに使用するデバイスによって、「電源管理」メニューの「AC通電再開時の動作」を次のように設定してください。
標準搭載のLAN：「使用しない」
PME対応のLANカード：「電源OFF」または「自動」

6.3.5　セキュリティメニュー

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
管理者用パスワード	設定状況を表示
ユーザー用パスワード	設定状況を表示
管理者用パスワード設定 ＞Enter	「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.99）
ユーザー用パスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.99）
起動時のパスワード ■使用しない　□最初のみ　□毎回	・「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 ・「管理者用パスワード」削除時は初期値に戻る
自動ウェイクアップ時 ■使用しない　□使用する	・LAN／タイマーなどによる自動ウェイクアップ時のパスワード要求有無を設定。 ・「起動時のパスワード」が「最初のみ」または「毎回」時に設定可能 ・「管理者用パスワード」削除時は初期値に戻る
ハードディスクセキュリティ	電源投入直後にBIOSセットアップを起動した場合のみ設定可能。再起動後は設定不可。
ドライブ0用パスワード	設定状況を表示
ドライブ1用パスワード	設定状況を表示
ドライブ4用パスワード	設定状況を表示
ドライブ0用パスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.99）
ドライブ1用パスワード設定 ＞Enter	対応ハードディスク搭載、かつ「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.99）
ドライブ4用パスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.99）
起動時のパスワード入力 □使用しない　■使用する	・再起動時は本設定に関係なくパスワード入力の要求は無し ・「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
TPM（セキュリティチップ）設定	
セキュリティチップ □使用しない　■使用する	・「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 ・設定変更は再起動後に有効
現在のTPM状態	
TPM状態の変更 ■変更しない □有効かつ使用可 □無効かつ使用不可	・設定変更は再起動後に有効 ・「管理者用パスワード」設定時で、かつ、「セキュリティチップ」が「使用する」時のみ設定可能 ・セキュリティチップの状態によっては、表示されない項目がある
セキュリティチップのクリア ＞Enter	・クリアは再起動後に実行 ・「セキュリティチップ」が「使用する」時のみ表示 ・「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 ・「現在のTPM状態」が「有効かつ使用可」の場合のみ選択可
Virtualization Technology □使用しない　■使用する	対応CPU搭載時のみ表示
Intel(R) VT-d ■使用しない　□使用する	・対応CPU搭載時のみ表示 ・「Virtualization Technology」が「使用する」時のみ設定変更可能 ・「Virtualization Technology」を「使用しない」に変更すると初期値に戻る
TXT ■使用しない　□使用する	・対応CPU搭載時のみ表示 ・「セキュリティチップ」、「Virtualization Technology」、および「Intel(R) VT-d」の各項目が「使用する」時のみ設定変更可能 ・「Virtualization Technology」または「Intel(R) VT-d」を「使用しない」に変更すると初期値に戻る

6.3.6　終了メニュー

項目を選んで【Enter】キーを押すと、確認画面が表示されます。

設定項目	備考
変更を保存して終了する（再起動）	
変更を保存して終了する（電源OFF）	
変更を保存せずに終了する（起動）	注
標準設定値を読み込む	次の項目は対象外 ・言語(Language) ・システム時刻 ・システム日付 ・管理者用パスワード ・ユーザー用パスワード ・ハードディスクパスワード

注 ： 確認画面で「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。「いいえ」を選択してください。

6.4 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

・BIOSのパスワード機能を使う（→P.99）
・起動デバイスを変更する（→P.102）
・セキュリティチップの設定を変更する（→P.103）
・Wakeup on LANを有効にする（→P.104）
・イベントログを確認する（→P.104）
・ご購入時の設定に戻す（→P.105）

6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次のとおりです。

□ 管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。
ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ ハードディスクパスワード

本ワークステーションのハードディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本ワークステーションを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- 「管理者用パスワード」またはハードディスクパスワードを変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」やハードディスクパスワードを設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本ワークステーションの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.86）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

・「管理者用パスワード設定」

・「ユーザー用パスワード設定」

●ハードディスクパスワードを設定する場合

・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn用パスワード設定」

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移ります。

POINT

- パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。大文字、小文字は区別されません。
- 入力した文字は表示されず、代わりに「＊」が表示されます。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴ります。また、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

● 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
・BIOSセットアップを起動するとき
・本ワークステーションを起動するとき
・休止状態からレジュームするとき
次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

```
パスワードを入力して下さい
_
```

● ハードディスクパスワード
・本ワークステーションを起動するとき
次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

```
ドライブ0用パスワードを入力して下さい
_
```

■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

● ユーザー用パスワードを忘れてしまった
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

● 管理者用パスワードを忘れてしまった
● ハードディスクパスワードを忘れてしまった

6.4.2　起動デバイスを変更する

本ワークステーションの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「詳細」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「1. 起動デバイス」～「4. 起動デバイス」に設定されている順にOSを検索します。同種のデバイスが複数接続されている場合は、別途それらの優先順位を設定します。

■ 異なるデバイス間の優先順位を変更する

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「起動デバイスの優先順位」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。

4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスの順位が入れ替わります。

5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

■ 同種のデバイス間の優先順位を変更する

1 「詳細」メニューを選択します。

2 デバイスに応じて次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。
・「取外し可能なドライブの優先順位」
・「ハードディスクドライブの優先順位」
・「CD/DVDドライブの優先順位」
・「ネットワーク起動デバイスの優先順位」

POINT

- フロッピーディスクドライブの優先順位を変更する場合は、「取外し可能なドライブの優先順位」を選択します。

3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。

4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスの順位が入れ替わります。

5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

6.4.3　セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップの状態を変更する

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

1 「セキュリティ」メニューを選択します。

2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「TPM状態の変更」を選択し、【Enter】キーを押します。
TPM状態によって「有効かつ使用可」「無効かつ使用不可」のいずれかが表示されます。

4 「有効かつ使用可」もしくは「無効かつ使用不可」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

■ セキュリティチップをクリアする

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

1 「セキュリティ」メニューを選択します。

2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認画面が表示されます。

POINT

- セキュリティチップの状態が「無効かつ使用不可」の場合、「セキュリティチップのクリア」はグレー表示され選択できません。この場合は、セキュリティチップの状態を「有効かつ使用可」に変更してから改めて操作してください。

4 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本ワークステーションの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。
再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

1 本ワークステーションの電源を入れるまたは再起動します。
起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。

2 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
セキュリティチップの状態が変更されます。

6.4.4　Wakeup on LANを有効にする

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。電源を切る方法については、「■ 電源の切り方」（→P.33）をご覧ください。
省電力状態からレジュームする機能については、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.32）をご覧ください。

1 「電源管理」メニューを選択します。

2 「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

6.4.5　イベントログを確認する

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.141）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

6.4.6　ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューを選択します。

2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

● 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
・日時の設定
・言語設定
・管理者用パスワード
・ユーザー用パスワード
・ハードディスクパスワード

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.88）

6.5 ME BIOS Extension

お使いのワークステーションには、インテル® AMT機能などを提供するME（Management Engine）BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

MEセットアップは、本ワークステーションにおいて動作確認済みの管理ソフトウェア（別売の「Systemwalker」など）を搭載している場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本ワークステーションご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

重要

- 「FUJITSU」ロゴ画面下に「[CTRL-ALT-F1] Remote Assistance」と表示されることがあります。通常は、本機能をお使いになれませんので操作しないでください。
  なお、Remote Assistanceをご利用になる場合は、管理者の指示に従ってください。
- 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

6.5.1　初期パスワードを変更する

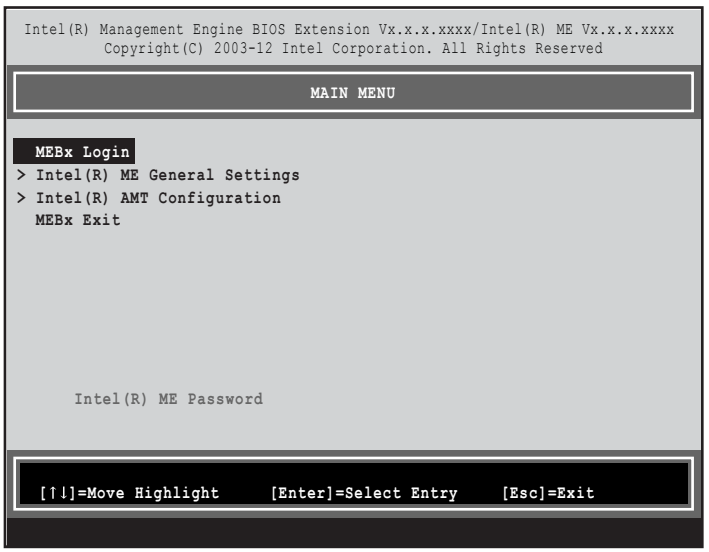
重要

- パスワードは、必ず変更してください。ご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。
- 変更したパスワードを忘れるとMEセットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) ME設定」の「Intel(R) ME設定のクリア」でご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。
  なお、「Intel(R) ME設定のクリア」は、管理者用パスワードを設定した場合に有効になります。

1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」ロゴ画面下に「[CTRL-P] MEセットアップ」と表示されたら、【Ctrl】＋【P】キーを押します。

MEセットアップログオン画面が表示されます。



POINT

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) ME設定」の「Intel(R) ME設定メニュー」の「Enter」を押すことにより、次回起動時 Intel(R) Management Engine BIOS Extentionsメニューに入ることもできます。
- 「Intel(R) AMT Configuration」メニューは、インテル® Core™ i3プロセッサーが搭載されている場合には、「Intel(R) Standard Manageability Configuration」メニューに変わります。

3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。

パスワード入力画面が表示されます。

4 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。

出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

POINT

- 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、キーボードのCapsLockインジケーターを確認して、再度パスワードを入力してください。
- パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本ワークステーションが再起動します。手順2からやり直してください。

5 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。

・8文字以上32文字以下
・1文字以上の数字を含む
・1文字以上の特殊文字（例：@、$、&）を含む
・1文字以上の小文字のアルファベットを含む
・1文字以上の大文字のアルファベットを含む

POINT

- MEセットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することはできません。
  ・次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	＝	[	]	'	＼
対応するキー	^	@	[	:	]

  ・次の文字を入力する場合は、【Shift】キーを押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	(	)	_	+	{	}	:	"	|
対応するキー	2	6	7	8	9	0	-	^	@	[	;	:	]

- 「:」「,」「"」は使用できません。また、「_」および「 」（スペース）は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

6 「Verify password」と表示されたら、手順5で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

POINT

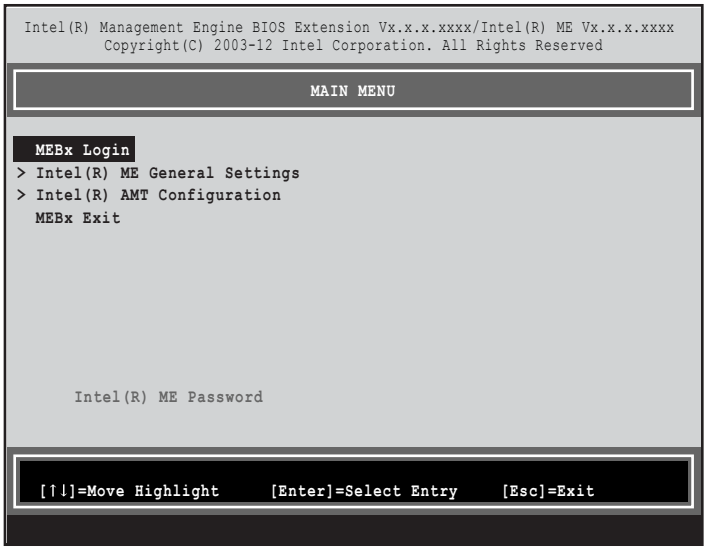
- 「Error - Intel(R) ME password change rejected」と表示された場合、新しいパスワードが手順5の条件を満たしていません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、文字数と使用している文字を確認して、手順5からやり直してください。
- 「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順5と手順6で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、手順5からやり直してください。

6.5.2　MEセットアップを起動する

1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」ロゴ画面下に「[CTRL-P] MEセットアップ」と表示されたら、【Ctrl】＋【P】キーを押します。

MEセットアップログオン画面が表示されます。



POINT

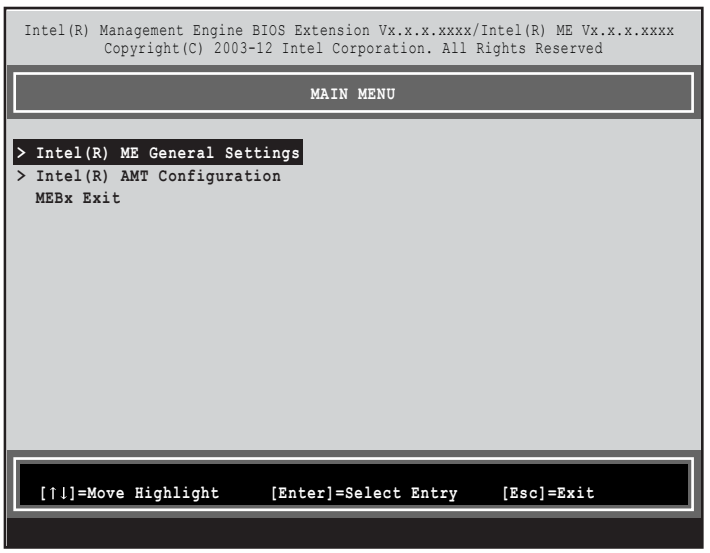
- 「Intel(R) AMT Configuration」メニューは、インテル® Core™ i3プロセッサーが搭載されている場合には、「Intel(R) Standard Manageability Configuration」メニューに変わります。

3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。

パスワード入力画面が表示されます。

4 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

MEセットアップ画面が表示されます。



重要

- MEセットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、MEセットアップは利用できません。

POINT

- 「Intel(R) AMT Configuration」メニューは、インテル® Core™ i3プロセッサーが搭載されている場合には、「Intel(R) Standard Manageability Configuration」メニューに変わります。

5 画面上部のメニューからME BIOS Extensionの設定を行います。

6.5.3　MEセットアップを終了する

1 「MAIN MENU」を表示します。

「MAIN MENU」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。

2 カーソルキーで「MEBx Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。

MEセットアップが終了し、OSが起動します。

6.5.4　メニュー詳細

ここでは、MEセットアップの主なメニュー項目について説明します。

■「Intel(R) ME General Settings」メニュー

設定項目		備考
Change Intel(R) ME Password		MEセットアップのパスワードを変更します。 「6.5.1 初期パスワードを変更する」（→P.107）の手順5以降をご覧になり、パスワードを変更してください。
Power Control		
	Intel(R) ME ON in Host Sleep States 注1 ■Desktop: ON in S0 □Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5	省電力状態（スリープ、休止状態）や電源オフ状態におけるME機能の有効／無効を設定します。 ・Desktop: ON in S0……本ワークステーションが動作状態のときにのみME機能が有効になります。 ・Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5……本ワークステーションが省電力状態および電源オフの状態でも、pingなどを受信した場合にはME機能が有効になります。
	Idle Timeout 注2	「Intel(R) ME ON in Host Sleep States」が「Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5」に設定されている場合に、本ワークステーションが省電力状態または電源オフに移行してからIntel® ME機能がオフ状態になるまでの時間を、分単位で設定します。

注1：「Intel(R) AMT Configuration」（「Intel(R) Standard Manageability Configuration」）メニューの「Activate Network Access」を実行すると、本設定は「Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5」に自動的に変更されます。必要に応じて再設定を行ってください。

注2：本設定を変更すると一部の管理ソフトウェアで正常に動作しなくなる場合があります。管理ソフトウェアにて動作が確認できている場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

■「Intel(R) AMT Configuration」メニュー

POINT

- 「Intel(R) AMT Configuration」メニューは、インテル® Core™ i3プロセッサーが搭載されている場合には、「Intel(R) Standard Manageability Configuration」メニューに変わります。

設定項目		備考
Manageability Feature Selection		本機能を使用しない場合は「Disabled」に設定します。
Network Setup		Intel® MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境にあわせて設定してください。
Active Network Access 注		ネットワークアクセスを有効にし、Intel® MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Unconfigure Network Access		
	Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。
	Partial Unprovision	・ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。 ・ネットワークアクセスが有効になっている場合のみ表示されます。

注 ：・「Activate Network Access」を実行しない場合、「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。
・「Activate Network Access」を実行した後は、本メニューは表示されなくなります。

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1　日常のお手入れ 114
7.2　定期的なお手入れ 116

7.1　日常のお手入れ

ワークステーション本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1　ワークステーション本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

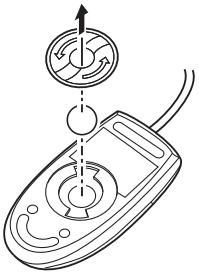
7.1.2　マウス（ボール式）

対 象　マウス（ボール式）

マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールやマウスの内部の汚れを取ってください。

1　マウスの裏ブタを取り外します。

マウスの底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。



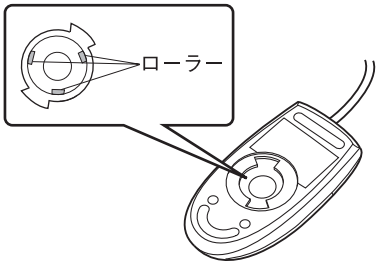
（イラストは一般的なマウスを表しており、
お使いのマウスとは細部が異なる場合があります）

2　ボールを取り出して、水洗いします。

ボールを水洗いした後は、充分に乾燥させてください。

3　マウスの内部の汚れを取ります。

マウスの内部と裏ブタを、水に浸して固く絞った布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4　ボールと裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分に乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

7.2 定期的なお手入れ

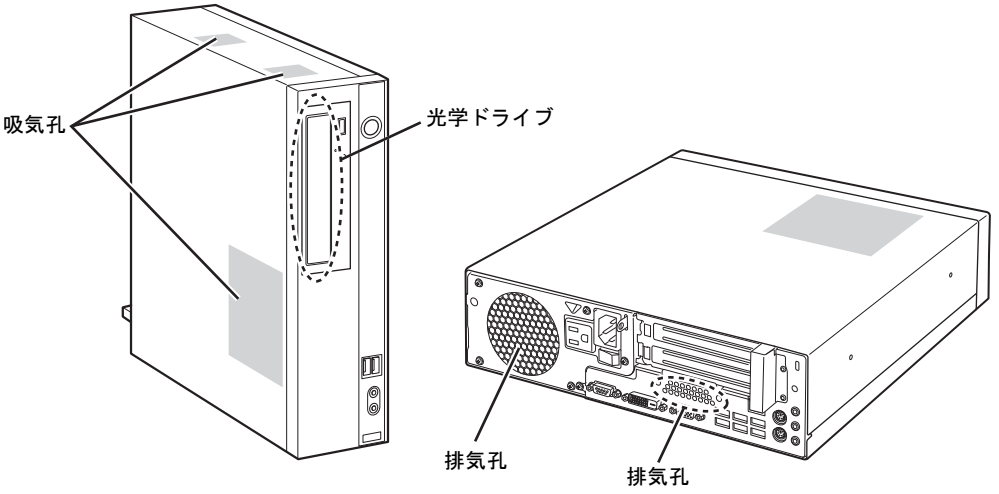
長期間ワークステーションを使用していると、通風孔やワークステーション内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。

7.2.1 注意事項

- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。
  この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。
- ワークステーション本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
  ワークステーション本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。

7.2.2 ワークステーション本体外部のほこりを取る

ワークステーション本体の通風孔（吸気や排気）、光学ドライブなどの開孔部にほこりがたまると、故障の原因となります。
通風孔などに付着したほこりは、掃除機で吸い取ってください。



7.2.3　ワークステーション本体内部のほこりを取る

ワークステーション本体内部や吸気孔などにほこりがたまった状態で使い続けると、ワークステーション本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。
ワークステーション本体内部や吸気孔のほこりは、掃除機で吸い取ってください。

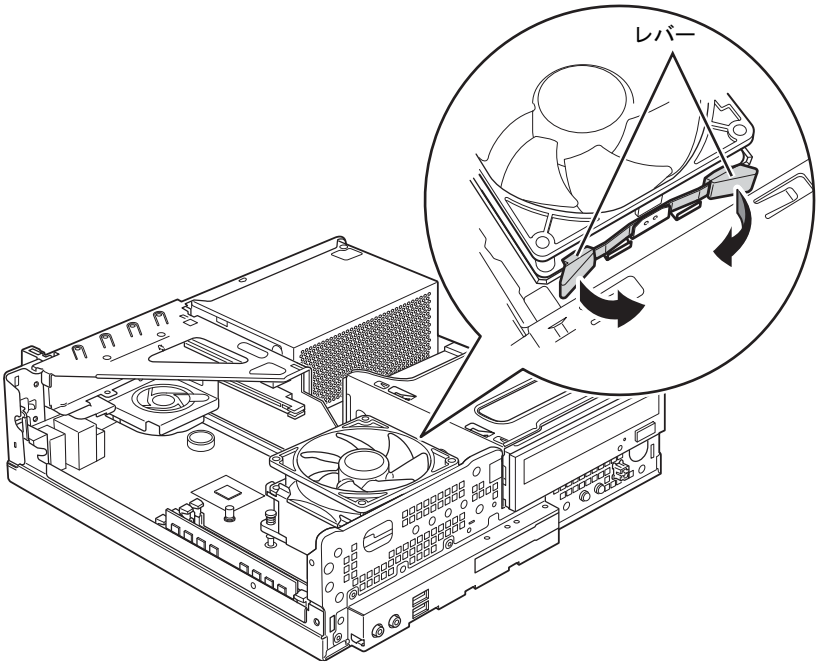
重要

- ワークステーション本体内部の突起物には、手を触れないでください。けがや故障の原因となります。

1 本体カバーを取り外します（→P.48）。

2 レバーを操作してCPUファンを外し、CPUファンの外枠のフレームを持って、CPUファンをヒートシンクから取り外します。

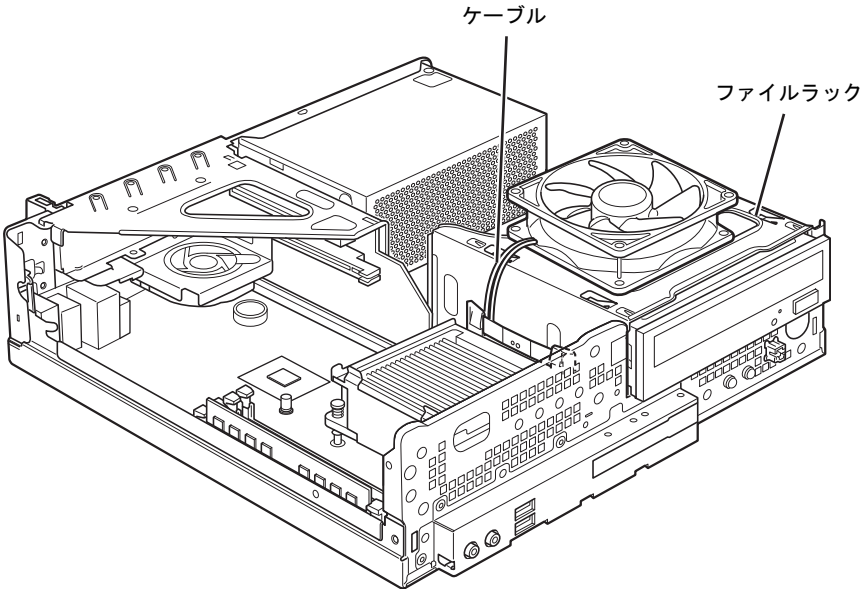
CPUファンを持つときは、CPUファンの羽根に触れないようにしてください。



2本のレバーをつまむように押さえながら、CPUファンを持ち上げます。

3 取り外したCPUファンを、ファイルラック部の上に置きます。

CPUファンのケーブルがコネクタから抜けないように注意してください。強く引っ張るとケーブルが抜ける場合があります。

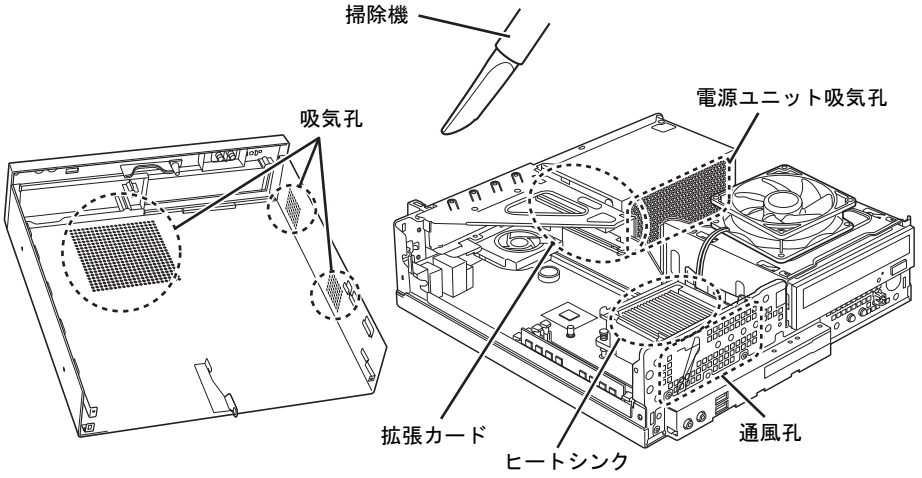


4 ワークステーション内部のほこりを、掃除機で吸い取ります。

イラスト点線部はほこりのたまりやすい場所です。

重要

- ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒やつまようじを使用してほこりを取ったりしないでください。ヒートシンクが変形する場合があります。
- イラストで示している場所以外には触れないようにしてください。故障の原因となります。

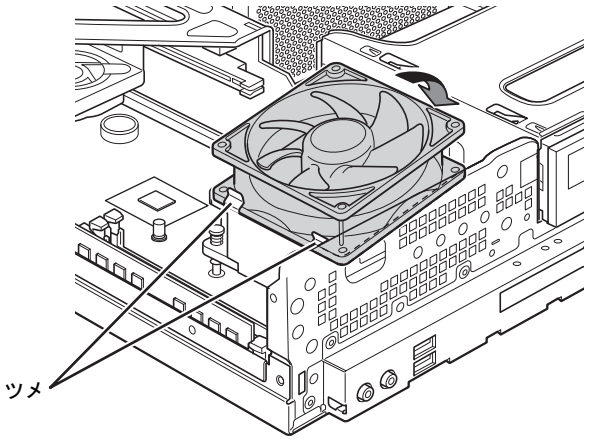


5 CPUファンのラベル面を下側に向け、ヒートシンクの上に置きます。

ヒートシンクのツメ（2ヶ所）にCPUファンのフレームを差し込んでから、CPUファンが固定されるまでしっかりと下ろしてください。

重要

- CPUファンを置くときに、ケーブルをはさまないようにしてください。

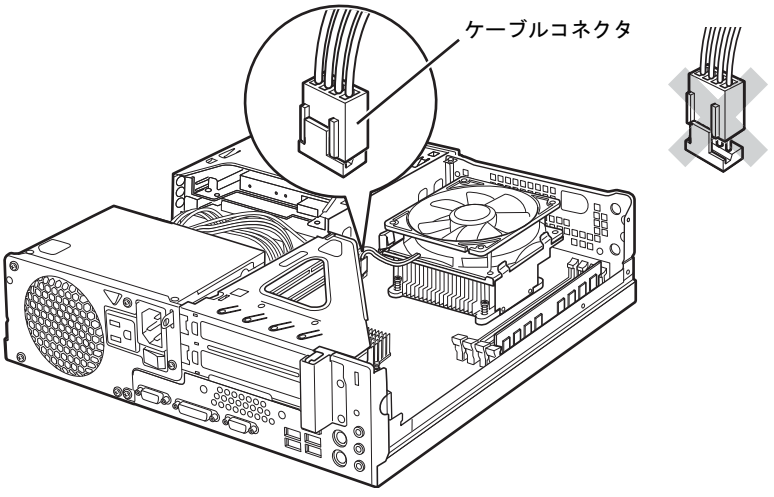


6 CPUファンを固定します。

そのままCPUファンを下に押し込みます。「カチッ」と音がしてCPUファンがレバーに固定されます。

7 CPUファンのケーブルコネクタがきちんと接続されていることを確認します。

少しでも外れていた場合は、きちんと接続してください。



8 本体カバーを取り付けます（→P.49）。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

8.1　トラブル発生時の基本操作 121
8.2　よくあるトラブルと解決方法 125
8.3　それでも解決できないときは 144

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のワークステーションの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか？
  キーが押され、ワークステーションが正常に動作しないことがあります。

このほか、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.127）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。
発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3　セーフモードで起動する

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。
起動方法は次のとおりです。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「詳細ブートオプション」が表示されます。
【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

重要

- FUJITSUロゴが表示された後に「Press <CTRL-P> to enter Intel(R) ME Setup」と表示された場合は、表示が消えた後に【F8】キーを押してください。

3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

POINT

- セーフモードでも起動できない場合
手順3で「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択して、Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。

8.1.4　トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.125）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.5　Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

8.1.6　インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html）では、本ワークステーションで発生したトラブルの解決方法を提供しています。
また、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本ワークステーションに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。
注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

8.1.7　診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.4.6　ご購入時の設定に戻す」（→P.105）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

POINT

- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を切ってもう一度操作してください。

3 カーソルキーで「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にワークステーションが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。【Enter】キーを押してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6に進んでください。

● トラブルが検出された場合

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押してワークステーションの電源をお切りください。

6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

POINT

- 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
  診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

10 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

12 「トラブル解決ナビ」ウィンドウで「終了」をクリックし、終了を確認する画面で「OK」をクリックします。

ワークステーションが再起動します。

8.1.8　サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」（→P.144）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

●「電源が入らない」（→P.127）
●「ビープ音が鳴った」（→P.127）
●「メッセージが表示された」（→P.128）
●「画面に何も表示されない」（→P.128）
●「Windowsが起動しない」（→P.129）
●「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.130）

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

●「Windowsにログオンできない」（→P.131）
●「ソフトウェアが動かなくなってしまった」（→P.131）
●「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.131）
●「Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった」（→P.132）
●「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」（→P.132）

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

●「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」（→P.133）

□ メモリ

●「仮想メモリが足りない」（→P.133）

□ LAN

●「ネットワークに接続できない」（→P.134）
●「通信速度が遅い」（→P.134）

□ ハードディスク

●「ハードディスクからカリカリ音がする」（→P.135）

□ デバイス

●「機器が使用できない」（→P.135）

□ CD/DVD

●「ディスクからデータの読み出しができない」（→P.135）
●「ディスクが取り出せない」（→P.136）
●「WinDVDが起動しない」（→P.136）
●「ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない」（→P.136）

□ ディスプレイ

●「画面に何も表示されない」（→P.137）
●「表示が乱れる」（→P.137）
●「画面の表示がおかしい、遅い」（→P.138）

□ サウンド

●「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.138）
●「マイクからうまく録音ができない」（→P.138）

□ ポインティングデバイス

●「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.139）

□ USB

●「USBデバイスが使えない」（→P.139）
●「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.140）

□ プリンター

●「プリンターを使用できない」（→P.140）

□ FAN

●「FANが回転しない」（→P.140）

□ その他

●「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.140）

8.2.2　起動・終了時のトラブル

Q 電源が入らない

- 電源ケーブルまたはACアダプタは接続されていますか？
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？（メインスイッチ搭載機種）
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？

Q ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。
  ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
  ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
  ・メモリのテストエラー
  メモリが正しく取り付けられていないか、本ワークステーションでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
  メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
  ・グラフィックスカードの初期化（認識）エラー
  グラフィックスカードの初期化（認識）に失敗しています。グラフィックスカードが正しく取り付けられているか確認してください。
  Quadro 5000、およびQuadro 4000搭載機種の場合は、補助電源ケーブルが正しく取り付けられているか確認してください。
  メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。

  上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。

Q メッセージが表示された

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.141）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。**
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.141）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- **周辺機器の取り付けを確認してください。**
  拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。
- **「PLEASE POWER DOWN AND CONNECT THE PCIe POWER CABLE(S) FOR THIS GRAPHICS CARD」と表示されて、Windowsが起動しない場合があります。**
  グラフィックスカードの補助電源ケーブルが正しく取り付けられているか確認してください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Q 画面に何も表示されない

- **電源ランプが点灯していますか？**
  電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」（→P.127）をご覧ください。
- **ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。**
  - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
  - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
  - ・デジタルディスプレイや複数台のディスプレイを接続している場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
    必ずワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
  - ・グラフィックスカード搭載機種の場合、ワークステーション本体のディスプレイコネクタにケーブルを接続していませんか？
    ワークステーション本体のコネクタは使用できません。グラフィックスカードのコネクタに接続してください。

- **2台目のディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。**
  - ・2台目のディスプレイ出力に設定されていませんか？
    2台目のディスプレイだけに表示する設定になっていると、1台目のディスプレイには表示されません。
    「2.3 マルチディスプレイ機能」（→P.25）をご覧になり、設定を1台目のディスプレイ表示に切り替えてください。
  - ・解像度やリフレッシュレートは、2台目のディスプレイにあった設定になっていますか？
    そのまま15秒程度待っても1台目のディスプレイが表示されない場合は、本ワークステーションを強制終了してください。その後、2台目のディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、1台目のディスプレイに表示されます。
    「2.3 マルチディスプレイ機能」（→P.25）をご覧になり、お使いになる2台目のディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、2台目のディスプレイの表示に切り替えてください。
- **グラフィックスカードへの補助電源ケーブルを正しく接続していますか？**
  Quadro 5000、およびQuadro 4000搭載機種の場合、グラフィックスカードへの補助電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

Q Windowsが起動しない

- **Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。**
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- **次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？**
  - ・セキュリティチップ
    認証デバイスを使用してWindowsにログオンしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
    認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
    アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
    Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。

Q Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
  1. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、30秒以上待ってから電源を入れてください。

重要

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

8.2.3　Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Q　Windowsにログオンできない

- セキュリティチップを使用してWindowsにログオンしている場合、BIOSセットアップの設定を次のようにすると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。
  - ・「セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」の「セキュリティチップ」（M720、W520は「詳細」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」の「セキュリティチップ」）を「使用しない」に設定する。
- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにログオンできないときは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Q　ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windowsタスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ソフトウェアを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

Q　頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
  - ・ウイルス対策ソフトウェアでハードディスクをスキャンする
    定期的にハードディスクをスキャンすることをお勧めします。
  - ・Cドライブの空き容量が充分か確認する
    Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
    Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
    - ・ごみ箱を空にする
    - ・不要なファイルやソフトウェアを削除する
    - ・ディスクのクリーンアップを行う
  - ・ハードディスクのエラーチェックを行う

  それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

Q Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった

- **通風孔などにほこりが付着し、ワークステーションの内部が高温になっている可能性があります。**
  「7.2 定期的なお手入れ」（→P.116）をご覧になり、ワークステーションのお手入れをしてください。

対 象　RAID搭載機種

- **リビルド中は充分なI/O処理性能が得られないため、ディスクアレイの状態によってシステムのパフォーマンス速度が低下します。**
  『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。

Q 「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- **「FUJ02E3デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。**
  「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。
  表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
  1. 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」をセットします。
     「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。
  2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
  3. 「種別」に「ユーティリティ」を設定します。
  4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02E3 Device Driver」を選択します。
  5. 「内容」の「driver」フォルダー→「ja」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

8.2.4　ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

Q BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- **管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。**
  ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
  いずれの場合も修理が必要となります。
  ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
  詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.101）をご覧ください。

■ メモリ

Q 仮想メモリが足りない

- **仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。**
  仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。
  ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ＋1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- **搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。**

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
NTFS	パーティションサイズと同じ	ご購入時のブートパーティション

- **仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。**
  ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

1. コントロールパネルの「システム」を開きます。
   「システムとセキュリティ」→「システム」
2. ウィンドウ左の「システムの詳細設定」をクリックします。
3. 「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。

4. 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
5. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
6. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをクリックします。
   システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
7. 「カスタムサイズ」をクリックします。
8. 「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をクリックします。
   「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
9. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
10. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本ワークステーションを再起動します。

■ LAN

Q ネットワークに接続できない

- **ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？**
- **ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。**
  - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  - ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルをお使いください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

Q 通信速度が遅い

- **ネットワーク機器の電源を入れてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。**
  ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
  例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
  ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることを確認後、ワークステーション本体を再起動してください。
- **節電機能が働いていませんか？**
  節電機能に対応したLANデバイスを搭載している機種の場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度が下がります。
  これにより問題がある場合は、「2.7.1 有線LAN」（→P.44）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。

■ ハードディスク

Q ハードディスクからカリカリ音がする

- **次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。**
  - ・Windowsを終了した直後
  - ・省電力状態（スリープ、休止状態）にした直後
  - ・ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
  - ・中断した状態から再度ワークステーションを操作した場合
  - ・ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）

  これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■ デバイス

Q 機器が使用できない

- **「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？**
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
  システム管理者に確認してください。
  - ・USB
  - ・CD/DVD
  - ・フロッピーディスク
  - ・シリアル
  - ・パラレル

■ CD/DVD

Q ディスクからデータの読み出しができない

- **ディスクが正しくセットされていますか？**
  ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.20）の「ディスクをセットする」をご覧ください。
- **ディスクが汚れていたり、水滴が付いたりしていませんか？**
  汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- **ディスクが傷付いていたり、極端に反っていたりしませんか？**
  ディスクを交換してください。

- **規格外のディスクを使用していませんか？**
  規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.20）の「使用できるディスク」をご覧ください。

Q ディスクが取り出せない

- **ワークステーション本体は動作状態になっていますか？**
  本ワークステーションの光学ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「2章　取り扱い」（→P.20）の「ディスクを取り出す」をご覧ください。

Q WinDVDが起動しない

- **市販されているウイルス対策ソフトウェアを起動していませんか？**
  市販されているウイルス対策ソフトウェアと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトウェアを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本ワークステーションに添付の「ノートン アンチウイルス」は問題ありません。
- **自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェア（市販）をインストールしていませんか？**
  自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェアをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
  ウイルス対策ソフトウェアをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。
  なお、本ワークステーションに添付の「ノートン アンチウイルス」は問題ありません。

Q ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない

- **「WinDVD」を使用して、ディスクを再生していますか？**
  「WinDVD」以外のソフトウェアで再生した場合、円滑に再生できないことがあります。

■ ディスプレイ

Q 画面に何も表示されない

- 「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.127）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
  本ワークステーションには省電力機能が設定されており、一定時間マウスやキーボードからの入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「2.5 省電力」（→P.31）をご覧ください。

Q 表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
  「2.2.2 解像度を変更する」（→P.22）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
  1. ソフトウェアを最小化します。
  2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  - ・Windows起動時および画面の切り替え時
  - ・DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
  「5.2 インストール」（→P.80）をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。
  Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→P.122）。
- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD系ソフトウェアなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、またはリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- Dual Link対応ディスプレイをお使いの場合は、必ずディスプレイ付属のケーブル（Dual Link対応）をお使いください。

Q 画面の表示がおかしい、遅い

- 統一デスクトップ機能を使用している場合、WindowsのAero機能がOffとなるため、Aero機能を使用しているスクリーンセーバーやアプリケーションの動作が不安定になったり、画面表示が遅くなることがあります。マルチディスプレイの表示方法を拡張デスクトップ表示などに変更し、Aero機能を有効にしてお使いください。

■ サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  - ・ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  - ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、またはヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
  詳しくは、「2.4 サウンド」（→P.28）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
  必要に応じて、「5.2 インストール」（→P.80）をご覧になり、再インストールしてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.4 サウンド」（→P.28）をご覧ください。
- 録音を行いたいマイク端子が有効になっていますか？
  マイク端子が複数ある場合、後から接続したマイク端子が有効になります。両方にマイクを接続した状態で電源を入れると、R920、M720、W520の場合前面のマイク端子が、J520の場合背面のマイク端子が有効になります。
  また、音声を録音する機器が複数利用可能な場合、「2章　取り扱い」（→P.20）の「既定のオーディオ機器を選択する」をご覧になり、録音を行いたいマイク端子を既定のオーディオ機器に設定してください。

■ ポインティングデバイス

Q マウスポインターが動かない、正しく動作しない

- **マウスは正しく接続されていますか？**
- **ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？（マウス（ボール式）の場合）**
  「7.1 日常のお手入れ」（→P.114）の「マウス（ボール式）」をご覧になり、マウス内部をクリーニングしてください。
- **オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合）**
  オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- **キーボードは正しく接続されていますか？**
  キーボードとマウスをPS/2ポートに接続している場合、キーボードが正しく接続されていなくてもWindowsは起動しますが、マウスポインターは動きません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。
- **次のようなものの上で操作していませんか？（光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合）**
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

■ USB

Q USBデバイスが使えない

- **ケーブルは正しく接続されていますか？**
- **USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？**
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- **USBデバイスに不具合はありませんか？**
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。
  ワークステーションを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- **「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.135）**
- **USB3.0コネクタにUSB3.0に対応していないUSBデバイスを接続していませんか？**
  USB3.0コネクタにはUSB3.0に対応したUSBデバイスの接続を推奨します。
  USB3.0に対応していないUSBデバイスを接続して不具合が発生した場合は、USB2.0コネクタに接続してください。

USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
  必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
  次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャー」
  2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルクリックします。
     「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  3. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.135）

■ プリンター

プリンターを使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.135）

プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ FAN

FANが回転しない

- 室温が低い場合など装置内部の温度が低い時は、稼働中でもファンの回転を停止することがあります。故障ではありませんので、そのままお使いください。FANエラーとして記録されません。

■ その他

「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」というワークステーション本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
  故障ではありませんので、そのままお使いください。

8.2.5　エラーメッセージ一覧

ここでは、本ワークステーションが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。エラーメッセージ一覧には、お使いのワークステーションに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
B	
Boot Failure Press any key to continue	OSが見つかりませんでした。BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。
BOOT: Couldn't find NTLDR Please insert another disk	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCI Parity Error	オンボードデバイスまたは拡張カードでエラーが発生しました。拡張カードが正しく接続されているかご確認ください。それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCIパリティエラー	
Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCI System Error	オンボードデバイスまたは拡張カードでエラーが発生しました。拡張カードが正しく接続されているかご確認ください。それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCIシステムエラー	
C	
CPU Fan Error	CPUファンが壊れていないこと、ファンの電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存せずに終了する（起動）」を実行してください。CPUファンが正しく取り付けられている状態で本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
CPUファンエラーまたはCPUファンが接続されていません。	
K	
Keyboard/Interface Error.	キーボードテストでエラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。また、キーボードを接続せずにお使いになる場合は、エラーが表示されないようにBIOSセットアップの「詳細」メニューの「エラー停止」を「キーボード以外」に設定してください。
キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	
N	
Non - System disk or disk error Replace and press any key to ready	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

メッセージ	解説
P	
Press F1 to resume Press F2 to Run Setup <F1>キーを押すと継続します。 <F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	POST中にエラーが発生するとOSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すとOSの起動を開始します。【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
S	
System CMOS checksum bad システムCMOSのチェックサムが正しくありません。	CMOSチェックサムが間違っています。すべてのBIOS設定項目が標準設定値に変更されました。本ワークステーションを起動するたびに本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
System Disabled. システムは使用できません。	誤ったパスワードが3回入力されました。
System Fan Error システムファンエラーまたはシステムファンが接続されていません。	システムファンが壊れていないこと、ファンの電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存せずに終了する（起動）」を実行してください。システムファンが正しく取り付けられている状態で本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
C	
CPU Temperature Error	温度異常を検出しました。 電源を切って、ファンが壊れていないこと、またはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 10分ほど待ってから電源を入れ直してください。
D	
Diagnostic Program found error (Code=nnnnnnnn)	診断プログラムがエラーを検出しました。 診断コードを記録し、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
診断プログラムが異常を検出（ 詳細コード＝ nnnnnnnn）	
M	
Multi-Bit ECC Memory Error in DIMM:xx	電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切り、メモリを取り付け直してください。 メモリの取り付け方法については、「3.3.3 メモリを取り付ける」（→P.51）をご覧ください。
P	
Password Failure	間違ったパスワードが3回入力されたため、ワークステーションの起動を中断しました。
パスワード入力不正	
POST Error: CMOS Checksum Error	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー : CMOSチェックサムエラー	
POST Error: CMOS Time Not Set	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
POSTエラー : 日付/時刻不正	
POST Error: CPU Fan Error	CPUファンのテストでエラーが発生しました。 CPUファンのケーブルが正しく接続されているか、またCPUファンの回転部分にケーブルや異物がはさまっていないか確認してください。
POSTエラー : CPUファンエラー	
POST Error: Keyboard Not Functional	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POSTエラー : キーボードエラー	
POST Error: PCI Parity Error	拡張カードのテストでエラーが発生しました。 拡張カードが正しく取り付けられているか確認してください。
POSTエラー : PCIパリティエラー	
POST Error: PCI System Error	拡張カードのテストでエラーが発生しました。 拡張カードが正しく取り付けられているか確認してください。
POSTエラー : PCIシステムエラー	
POST Error: System Fan Error	システムファンのテストでエラーが発生しました。 システムファンのケーブルが正しく接続されているか、またシステムファンの回転部分にケーブルや異物がはさまっていないか確認してください。
POSTエラー : システムファンエラー	
R	
RISER Temperature Error	温度異常を検出しました。 電源を切って、ファンが壊れていないこと、またはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 10分ほど待ってから電源を入れ直してください。
S	
SYSTEM Temperature Error	温度異常を検出しました。 電源を切って、ファンが壊れていないこと、またはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 10分ほど待ってから電源を入れ直してください。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。
電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- ノートン アンチウイルス
  株式会社シマンテック
  シマンテック・テクニカル・サポートセンター
  ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
  ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。
  （更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。）
  詳しくは、製品別サポートページ（http://symss.jp）を参照のうえ、お問い合わせください。
  更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。
  シマンテック・ストア
  URL：http://www.symantecstore.jp/users.asp
- i-フィルター
  デジタルアーツ株式会社
  デジタルアーツ株式会社 サポートセンター
  電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334
  受付時間：10:00～18:00（年末年始、指定休業日を除く）
  URL：http://www.daj.jp/faq/
  お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/
  90日間の試用期間中、サポートいたします。
- Adobe Reader
  ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- Windows Live メール／Windows Live Messenger

  日本マイクロソフト株式会社

  Microsoft Answers フォーラムサイトからお問い合わせください。

  URL：http://answers.microsoft.com/ja-jp/

  情報を探す、質問を投稿する方法は「Microsoft Answers の使い方」ページでご確認いただけます。

  URL：http://support.microsoft.com/gp/microsoft-answers/
- Silverlight

  日本マイクロソフト株式会社　Silverlight サポートページ（URL：http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=199242）からお問い合わせください。

  ・ページ右側の「お問い合わせ」の下にある「マイクロソフトへ問い合わせる」をクリックし、画面の指示に従って、お問い合わせください。
- CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

  富士通株式会社

  BI OnDemand　サポートデスク

  ERP 事業本部　BI ソリューション部

  ユーザーサポートサイト

  URL：http://www.biondemand.jp/support/customer/pcbundle.html

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1 本体仕様 147
9.2 CPU 151
9.3 ディスプレイ 153
9.4 光学ドライブ 154

9.1 本体仕様

9.1.1 J520

製品名称			CELSIUS J520		
CPU[注1]	名称		インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1275 v2[注2]	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1225 v2[注2]	インテル® Core™ i3-2120 プロセッサー[注3]
	動作周波数		3.50GHz（最大3.90GHz[注4]）	3.20GHz（最大3.60GHz[注4]）	3.30GHz
	コア数／スレッド数		4／8	4／4	2／4
	キャッシュメモリ		3次：8MB		3次：3MB
チップセット			インテル® C216		
システムバス			5GT/s DMI[注5]		
メインメモリ		Windows 7（64ビット版）	標準2GB（2GB×1）[注6]（PC3-12800 DDR3 SDRAM DIMM CL11 ECCあり）最大16GB[注7][注8]		
		Windows 7（32ビット版）	標準2GB（2GB×1）[注9]（PC3-12800 DDR3 SDRAM DIMM CL11 ECCあり）最大4GB[注8][注10]		
メモリスロット		Windows 7（64ビット版）	×4（空きメモリスロット×3）[注11]		
		Windows 7（32ビット版）	×4（空きメモリスロット×3）		
表示機能[注12]	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics P4000（CPUに内蔵）[注13]		Intel® HD Graphics 2000（CPUに内蔵）[注13]
	ビデオメモリ	Windows 7（64ビット版）	最大768MB（メインメモリと共用）[注14]		最大770MB（メインメモリと共用）[注15]
		Windows 7（32ビット版）	最大771MB（メインメモリと共用）[注16]		最大768MB（メインメモリと共用）[注17]
	解像度／発色数		最大1920×1200ドット／最大1677万色		
	DirectX		11		10.1
	OpenGL		3.1		3.0
ハードディスクドライブ[注18]			250GB[注19]（Serial ATA、7200rpm）		
光学ドライブ[注20]			CD/DVDドライブ[注21]		
オーディオ機能	オーディオコントローラー		チップセット内蔵＋High Definition Audio Codec		
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注22] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注22] 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート		
通信機能		LAN	1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注23]、Wakeup on LAN対応[注24]		
セキュリティ機能	セキュリティチップ		TCG Ver 1.2準拠[注25]		
	盗難防止用ロック取り付け穴		あり		

製品名称			CELSIUS J520	
インターフェース	外部ディスプレイ 注12注26	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
		DVI-D	24ピン×1 注27	
	シリアル注28		非同期RS-232C準拠 D-SUB9ピン×1（16550A互換）注27	
	キーボード／マウス		PS/2準拠 ミニDIN 6ピン×2（キーボード用×1、マウス用×1）	
	USB注29		USB3.0準拠×4（背面×4）注30 USB2.0準拠×4（前面×2、背面×2）注31	
	LAN		RJ-45×1	
	オーディオ	マイク	φ3.5mmモノラル・ミニジャック×2 入力100mV以下、入力インピーダンス（AC）5kΩ以上（DC）2kΩ以上	
		ヘッドホン	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω	
		ラインイン	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
		ラインアウト	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
自己診断（POST時）			CPUファン停止検出	
拡張スロット			×2	
			PCI Express x16 Graphics（PCI Express 3.0準拠）×1 注32	PCI Express x16 Graphics（PCI Express 2.0準拠）×1 注32
			32bit/33MHz PCI（Rev 2.3 準拠）（ハーフ：176mm×107mm）×1 注33注34	
ストレージベイ		5インチベイ	前面×1（空きベイ×1）注35	
		3.5インチベイ	内部×1（空きベイ×0）	
電源／周波数			AC100V±10%、50/60Hz +2% -4%（入力波形は正弦波のみサポート）	
消費電力 注36	電源オフ時注37		0.9W	
	動作時注38（通常時／最大時注39／スリープ時）	Windows 7（64ビット版）	約22W／約145W／約1.5W	約21W／約145W／約1.5W
		Windows 7（32ビット版）	約23W／約146W／約1.5W	約21W／約146W／約1.5W
	最大消費電力注40（本体のみ）		約506W（約281W）	
定格電流	動作時		最大6.2A	
外形寸法（突起部含まず）		縦置き	W 89×D 338×H 332 mm W 179×D 338×H 344 mm（フット装着時）	
		横置き	W 332×D 338×H 89 mm W 422×D 338×H 101 mm（フット装着時）	
質量			約6.8kg	
電波障害対策			VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム注41注42			対応注43	
温湿度条件			温度10～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストールOS注44注45			Windows® 7 Professional（64ビット版）正規版注46、 Windows® 7 Professional（32ビット版）正規版注46	
サポートOS注44注48			Windows® 7 Enterprise（64ビット版）正規版注46注47、 Windows® 7 Enterprise（32ビット版）正規版注46注47、 Windows® 7 Professional（64ビット版）正規版注46注47、 Windows® 7 Professional（32ビット版）正規版注46注47、 Windows® XP Professional正規版注49注50	

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1　：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」（→P.151）をご覧ください。

注2　：・本ワークステーションは「インテル® vPro™テクノロジー対応」です。
・Intel® Active Management Technology（I AMT 8.0）に対応。ただし、カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は、インテル® AMTの一部の機能が使えなくなります。

注3　：本ワークステーションは「インテル® Standard Manageability」に対応しています。

注4 ： インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.151）動作時。
注5 ： DMIはDirect Media Interfaceの略です。
注6 ： カスタムメイドの選択によっては、4GB（2GB × 2）、8GB（4GB × 2）、または16GB（4GB × 4）の場合もあります。
注7 ： メモリを増設する場合、すでに搭載されているメモリを取り外す必要のあることがあります。
注8 ： インテル(R) Core(TM) i3-2120 プロセッサーの場合は、PC3-10600で動作します。
注9 ： カスタムメイドの選択によっては、4GB（2GB × 2）の場合もあります。
注10 ： ・4GB搭載時でも、OSの画面上の表示にかかわらず、OSが使用可能な領域は約3GBになります。
ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
・合計で2GBを超えるメモリを搭載した場合は、完全メモリダンプを使用できません。
注11 ： カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。
注12 ： カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は、「9.1.2 グラフィックスカードを選択した場合」（→P.150）をご覧ください。
注13 ： カスタムメイドの選択によって、「Quadro 2000」または「Quadro 600」が搭載されています。
注14 ： Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本ワークステーションの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大770MB
・メインメモリ4GB以上の場合：最大1696MB
注15 ： Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本ワークステーションの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大768MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1555MB
注16 Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本ワークステーションの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大770MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1696MB
注17 Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本ワークステーションの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大768MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1554MB
注18 ： 容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注19 ： カスタムメイドの選択によっては、500GB（Serial ATA、7200rpm）の場合もあります。
注20 ： カスタムメイドの選択によって搭載されています。
注21 ： 光学ドライブの仕様は、「9.4 光学ドライブ」（→P.154）をご覧ください。
注22 ： 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
注23 ： ・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注24 ： ・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能は使用できません。
・Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本ワークステーションの有線LANインターフェース
・本ワークステーションの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本ワークステーションが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWakeup on LAN機能が動作しない場合があります。
・省電力状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.32）をご覧ください。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「6.4.4 Wakeup on LANを有効にする」（→P.104）をご覧ください。
注25 ： ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
注26 ： カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は使用できません。
注27 ： ワークステーション本体のシリアルコネクタとDVI-Dコネクタを同時に使用する場合は、2つのコネクタの横幅の合計が74mmを超えないようにしてください。
注28 ： すべてのシリアル対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注29 ： すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注30 ： USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
注31 ： USB2.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
注32 ： カスタムメイドのグラフィックスカード専用スロットです。
注33 ： ・すべてのPCI規格の拡張カードの動作を保証するものではありません。
・リテーナ付のカードは搭載できません。
注34 ： カスタムメイドでグラフィックスカードQuadro 2000を選択した場合は、使用できません。
注35 ： カスタムメイドで光学ドライブを選択した場合、「空きベイ × 0」になります。
注36 ： ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。
注37 ： 消費電力を0にするには、メインスイッチを「○」側に切り替えるか、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注38 ： ・ご使用になる機器構成により値は変動します。
・標準構成でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。
注39 ： ・本ワークステーションで選択可能なカスタムメイドの最大構成で測定しています。
・測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
注40 ： アウトレット：3A/300VAを含んだ値です。
注41 ： 本ワークステーションの国際エネルギースタープログラムのカテゴリーは、デスクトップコンピューターとなります。
注42 ：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
注43 ： 当社は､国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

注44 ： 日本語版。
注45 ： いずれかのOSがプレインストールされています。
注46 ： Windows® 7 Service Pack 1。
注47 ： Windows 7を新規にインストールする場合は､「■ Windows 7の新規インストールについて」（→P.156）をご覧ください。
注48 ： 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
注49 ： Windows® XP Service Pack 3。
注50 ： Windows XPへ移行する場合は、富士通製品情報ページにある「OS関連情報」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/）の「他のOSをお使いになる方へ」をご覧ください。

9.1.2　グラフィックスカードを選択した場合

表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Quadro 2000	Quadro 600
	ビデオメモリ注1		1GB（GDDR5）	1GB（DDR3）
	解像度／発色数	DisplayPort	最大2560×1600ドット／最大1677万色	
		DVI-I	最大2560×1600ドット／最大1677万色（Dual Link対応ディスプレイ接続時） 最大1920×1200ドット／最大1677万色（Dual Link非対応ディスプレイ接続時） 最大1920×1200ドット／最大1677万色（アナログディスプレイ接続時）	
	DirectX		11.0	
	OpenGL		4.1注2	
インターフェース	外部ディスプレイ	DisplayPort	20ピン×2	20ピン×1
		DVI-I	29ピン（HDCP対応）×1	

注1 ： 専用ビデオメモリの他、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。
その容量はメインメモリの容量により変動します。
注2 ： サポートするOpenGLのバージョンは、お使いのディスプレイドライバーによって異なる場合があります。

9.2 CPU

本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いのワークステーション本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 インテル® Xeon® プロセッサー E3-1275 v2	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 インテル® Xeon® プロセッサー E3-1225 v2	インテル® Core™ i3-2120 プロセッサー
インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0	○	○	×
インテル® ハイパースレッディング・テクノロジー	○	×	○
インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー	○	○	○
拡張版Intel SpeedStep®テクノロジー（EIST）	○	○	○
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	○	○	○

■ インテル(R)ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます（→P.93）。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます（→P.97）。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

- この機能により本ワークステーションの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」（→P.34）をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「［ソフトウェア名称］は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 解像度

本ワークステーションが出力可能な解像度です。
お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は、「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

解像度	対応	水平走査周波数（kHz）	リフレッシュレート（Hz）
800×600	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024×768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280×1024	○	64.0	60
		80.0	75
		91.1	85
1360×768	○注1	47.7	60
1440×900	○注1	55.9	60
1600×1200	○	75.0	60
		93.8	75
		106.3	85
1680×1050	○注1	64.7	60
1920×1080	○注1	67.0	60
1920×1200	○注1	74.0	60
1920×1440	○注1注2	90.0	60
2048×1536	○注1注2	注3	注3
2560×1440	○注1注2	88.8	60
2560×1600	○注1注2	98.7	60

注1 ：お使いの外部ディスプレイのパネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。
注2 ：グラフィックスカードのDisplayPortコネクタを使用する場合、およびグラフィックスカードのDVIコネクタにDual Link対応ディスプレイを接続して使用する場合のみ表示できます。
注3 ：接続するディスプレイにより異なります。お使いのディスプレイの仕様をご確認ください。

9.4 光学ドライブ

対 象　光学ドライブ搭載機種

各数値は仕様上の最大値です。使用するディスクや状況によって異なる場合があります。
お使いの光学ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ注		DVD-ROM ドライブ	
	読込速度	書込速度	読込速度	書込速度
CD-ROM	40x	—	40x	—
CD-R	40x	40x	40x	—
CD-RW	40x	10x	40x	—
DVD-ROM	16x	—	16x	—
DVD-R（4.7GB）	10x	16x	8x	—
DVD-R DL（8.5GB）	8x	8x	8x	—
DVD-RW	8x	6x	8x	—
DVD+R（4.7GB）	10x	16x	8x	—
DVD+R DL（8.5GB）	8x	8x	8x	—
DVD+RW（4.7GB）	8x	8x	8x	—
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）	5x	5x	5x	—
DVD-RAM2	12x	12x	—	—

注 ：バッファーアンダーランエラー防止機能付

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **ハードディスクのデータを消去していますか？**
  ワークステーション本体に搭載されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。ワークステーションを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  ハードディスク内のデータ消去については、「4.5 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.69）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  ・本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

付録

■ Windows 7の新規インストールについて

Windows 7を新規にインストールするときに気をつけていただきたいことについて説明します。

□ 注意事項

- Windows 7を新規にインストールすると、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windows 7をインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- カスタムメイドやオプション、またはご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください。
- 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」の「種別」の「必須」に表示されるドライバーはすべてインストールしてください。また、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて、「カスタムメイド」に表示されるドライバーも必ずインストールしてください。インストールしなかった場合、ワークステーションが正常に動作しません。
- 光学ドライブが搭載されていない場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- USB3.0コネクタはOSのインストール時に使用できません。USBキーボード、USBマウス、スーパーマルチドライブユニットなどのUSB機器は、USB2.0コネクタに接続してください。

□ 準備

- BIOSの設定をご購入時の状態に戻す（→P.105）
- ハードディスクデータを消去する（→P.69）
- ディスクを用意する
  - ・正規のWindows 7のインストールディスク
  - ・トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク〔リカバリ起動ディスク〕

□ 手順

1. **Windows 7のインストールディスクをセットし、ディスクから起動します。**
   「CD/DVDの起動モードを選択してください。」または「Please select CD/DVD boot mode:」と表示された場合は、「BIOS モードで起動」または「BIOS Boot」を選択してください。
2. **画面の指示に従って、OSのインストールとセットアップを行います。**
   「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示された場合は、「System」と書かれたパーティションを選択してください。
3. **必要に応じて、Windows 7 Service Pack1をインストールします。**
4. **ドライバーおよびユーティリティをインストールします。**
   1. 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク〔リカバリ起動ディスク〕」をセットします。
      「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。
      自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
   2. 「種別」から「必須」を選択します。
   3. 表示されたドライバーを、上から順にすべてインストールします。
   4. 「種別」から「カスタムメイド」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

索引

A

Adobe Reader 77, 144

B

BIOS
　ーイベントログ 104, 143
　ーエラーメッセージ 141
　ーパスワード 99
BIOSセットアップ 85
　ー起動する 86
　ー終了する 88

C

CPU 151
CRYSTAL REPORTS 2008
　for FUJITSU 145

D

DEP 152
DVD-Video 42

E

Easy Backup2 . . . . . 72, 77
EIST 152

I

i-フィルター 75, 82, 144

L

LAN 44
LANコネクタ 60

M

ME BIOS Extension 106
MEセットアップ
　ー起動する 109
　ー終了する 110
Microsoft Office 79, 82

P

PC乗換ガイド 76
Portshutter 65, 75

R

Roxio Creator 41, 78

S

SMARTACCESS/Basic 75, 82

U

UpdateAdvisor 64, 76
USBコネクタ 59

W

Wakeup on LAN 32, 104
Windows Live メール 78, 145
Windows Update 64
WinDVD 42, 78

あ行

アンインストール 83
イベントログ 104, 143
インストール
　ーi-フィルター 82
　ーMicrosoft Office 82
　ーSMARTACCESS/Basic 82
　ーノートン アンチウイルス 82
インテル(R) バーチャライゼーション・
　テクノロジー 152
インテル(R) ハイパースレッディング・
　テクノロジー 151
エグゼキュート・ディスエーブル・
　ビット機能 66, 152
エラーメッセージ 128, 141
オーディオ端子 59
お問い合わせ先 144
音量調節
　ー機器／項目 29
　ー全体 28
　ーソフトウェア 28
音量ミキサー 28

か行

解像度. 22, 153
拡大表示設定. 23
拡張カード. 53
拡張デスクトップ表示. 25
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー
（EIST）. 152
キーボード
ーお手入れ. 114
起動デバイス. 102
起動メニュー. 89
クローン表示. 25
光学ドライブ
ー書き込み. 41
ー再生. 42
ー仕様. 154
ー使用できるディスク 37
ーセット. 39
ー取り出し. 40
コンピューターウイルス. 63

さ行

シャットダウン. 33
省電力
ー省電力状態. 31
ー省電力設定. 34
シリアルコネクタ. 61
シングル表示. 25
診断プログラム. 123
セーフモード. 122
セキュリティ施錠金具. 67
セキュリティチップ. 65, 103

た行

ディスプレイ. 22
ー解像度. 153
ー解像度の変更. 22
ー拡大表示設定の変更. 23
ーマルチディスプレイ機能. 25
ディスプレイコネクタ. 57
ディスプレイの電源を切る. 35, 77
データ実行防止（DEP）機能. 152
電源プラン. 34
電源を切る. 33
盗難防止用ロック. 67
ドライバーズディスク検索ツール. 80

な行

ノートン アンチウイルス . . 63, 75, 82, 144

は行

ハードディスクデータ消去. 70
ハードディスクパスワード. 99
廃棄. 69, 155
ハイブリッドスリープ. 33
パスワード
ーBIOS. 99
ーME BIOS Extension 107
バックアップ. 72
ビープ音. 127
富士通モニタユーティリティ 77
付録. 156
ヘッドホン端子. 59
本体カバー. 48

ま行

マイク端子. 59
マウス. 21
ーお手入れ. 114
マルチディスプレイ機能. 25
ー拡張デスクトップ表示 25
ークローン表示. 25
ーシングル表示. 25
メモリ. 50
ー取り付け. 51
ー取り外し. 52

や行

ゆったり設定2 77

ら行

ラインアウト端子. 59
ラインイン端子. 59
リージョンコード. 43
リサイクル. 155
レジューム. 32

CELSIUS
J520

製品ガイド
B6FJ-8941-01-01

発 行 日　2012年6月
発行責任　富士通株式会社

〒105-7123　東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。
●落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㋐